

## <参考資料>景観向上効果調査事例集

### 1 事例集の位置づけ

本<参考資料>は、5章に示した景観向上効果調査実施の参考になるよう、13事例について、調査の手順、実施に必要な準備、実施手法及び取りまとめ方法についてまとめたものである。うち2事例（金山町まちなみ整備・山形県、太田川基町環境護岸整備・広島県）については、調査実施にあたっての留意事項を含め、表-参.1のような構成で解説を加えたものを紹介する。

表-参.1 詳細版（2事例）の構成

1	調査設計
1-1	事業条件の整理
1-2	調査対象とする景観向上効果の選定
1-3	調査実施にあたっての留意事項
2	調査結果
2-1	各手法における調査結果概要
2-2	確認された景観向上効果
2-3	考察および取りまとめ

### 2 事例集

#### 2-1 景観向上効果一覧

本<参考資料>で取り上げた13事例について、事業の条件、および当初想定された効果と調査により確認された効果の対応を整理したものを、表-参.2に示す。

景観向上効果調査の実施にあたっては、第5章の内容を踏まえ、事業の条件、もしくは確認したい景観向上効果において類似する事例を参考にされたい。

表一参.2 各事例の事業の条件、および景観向上効果一覧

事業分野・施設		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII
		都市・地域整備	河川	公園	河川	河川	海岸	道路	街路・遊歩道	橋梁・高架橋	橋梁・高架橋	駅・駅前広場	港湾	港湾
事例名称		金山町まちなみ整備	太田川基町護岸	児ノ口公園	津和野川河川景観整備	岸公園	指宿海辺の散歩道	福島西道路	壺屋やちむん通り	勝山橋	油津堀川運河・木橋(夢見橋)	日向市駅周辺地区整備	門司港レトロ地区	自動車道
事業の条件	竣工年	—	83	95	96	99	94	98	98	00	07	—	00	97
	直轄(事業主体:国)	●	●			●		●						
	整備の種類(新規/改修)	改	新	改	改	改	改	新	改	改	新	改	新	新
	事業の総合性(複合的整備:●)	●				●						●	●	●
	PIの実施	●		●				●	●		●	●	●	
事業の条件	事業の規模(大:地域全体へ影響、小:コミュニティへ影響)	大	大					大		大		大	大	大
	地域住民以外の利用		●		●	●	●	●	●				●	●
景観整備による効果														
整備された空間に対する認知・印象	①整備した空間の印象の向上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	②整備した空間の機能向上に対する認知	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
意識に与える効果	①親しみ・愛着・誇りの向上/その他	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	②地域のシンボル・ランドマークとしての認知、地域らしさの認知	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	③景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	④住民、行政、設計者、施工者の信頼関係の構築	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
住民との日常生活に与える効果	①利用の増加	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	②利用の多様化	●	●	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	③コミュニティの形成	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	④イベントの開催	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑤維持管理活動の実施	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	△	●	●
	⑥地域活動団体の活動の発展	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑦祭りの開催	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑧花見等の自然を活かしたイベントの開催	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑨商業目的のイベント開催	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑩利用ルールを設定	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
周辺空間に与える効果	①建物の形態、ファサード、意匠等の変化	●	●	●	●	●	●	△	●	●	●	△	●	●
	②建築外構の変化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	△	●
	③公共空間整備の拡張	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	④周辺施設整備との連携	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑤視点場の形成	●	△	●	●	●	●	△	●	●	△	●	●	●
	⑥景観条例、景観計画等の策定	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑦景観形成に関する協議会の設置	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑧人材育成	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑨技術開発、継承	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	⑩PR活動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
外部評価の高まり	①外部機関(専門家)からの表彰	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	②マスコミ・マスメディア掲載の増加	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	③地価の上昇、居住者の増加	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

●：確認された景観向上効果、△：想定と異なり確認されなかった効果

## 2-2 各事例の紹介

I	金山町まちなみ整備 [詳細版]	51
II	太田川基町環境護岸 [詳細版]	73
III	児ノ口公園	100
IV	津和野川ふるさとの川整備事業	109
V	宍道湖袖師親水型湖岸堤	118
VI	指宿海辺の散歩道	126
VII	福島西道路沿道風景づくり事業	133
VIII	壺屋やちむん通り	142
IX	勝山橋	151
X	油津堀川運河・木橋（夢見橋）	158
X I	日向市駅周辺地区整備	170
X II	門司港レトロ地区環境整備	177
X III	汽車道	194



本事例は、事業に関するパンフレットや、対象地の空間形成に関する調査報告書、また当時の担当者や地元住民の話が掲載された新聞記事や書籍、雑誌、論文等、参考となる資料が多数存在した。それらを整理した結果、本事例の主な特徴は、「事業期間が長期間であること」、「整備対象が公園や生活道路など多岐にわたっていること」、「事業の規模が大きく、複数のコミュニティがその影響を受けていること」と言える。

### I-1-2 調査対象項目の選定

ここでは、計画・設計者の一人である片山和俊氏（東京芸大教授）へのヒアリング調査結果を併せて、①：計画・設計者の意図および景観に配慮した具体的な内容、②：①から想定された景観向上効果、について下記のように整理した。なお、片山氏の他に、主に事業に関わってきた林寛治氏（林寛治設計事務所代表）および住吉洋二氏（(株)都市企画工房代表）の両氏の意図の整理においては、先に述べた文献資料を参考にした。

計画・設計の意図	景観に配慮した内容	想定された効果
<b>A. 古い建物と新しい建物の調和</b>		
1 住宅建築コンクールの開催	○金山型住宅の普及と大工職人の育成・技術向上を目的として設立 ○住宅の周囲の環境・景観についても審査対象とする	●金山型住宅に対する親しみ・愛着、誇りの向上 ●古い建物に対する親しみ・愛着、誇りの向上
2 地場産業、伝統技術の活用	○住宅に、金山杉を使用 ○在来工法（白壁と切り妻屋根）による住宅建替え	●生活道路（裏道）に面する箇所への修景 ●金山型住宅への建て替え
3 既存の古い建物の活用	○地元の人が集える拠点としての修景整備	●建築物・工作物の修景 ●古い建物の保存・復元
<b>B. 街並み回遊ルート整備による回遊性の向上</b>		
1 堰・水路の整備	○水路は町中を張り巡らせるように整備 ○家並みと調和する石積みで整備	●生活道路での散策増大 ●公園の利用増大
2 生活道路・公園等の整備	○道路舗装は地域の材料である、緑色の安山岩を骨材とした洗い出しを採用	●維持管理活動の発足、拡大 ●整備対象に面する箇所への修景
<b>C. 基準誘導による美しい街並みの形成</b>		
1 金山町地域住宅計画（HOPE計画）の策定	○美しい街並み形成の考え方、地域に合った住宅モデルの提案、これらの進め方等について体系的に整理 ○「杉林と豪雪という町の風土と金山杉を使った木造住宅」がキーワード	●金山型住宅に対する親しみ・愛着、誇りの向上 ●生活道路（裏道）に面する箇所への修景
2 金山町街並み景観形成基準の制定	○道路からの外壁の後退 ○屋根の色調、屋根の形態、屋根の勾配、等の基準の制定 ○外壁の仕上げ（オイルステン仕上げや木材保護着色材仕上げの杉板張等）・（しっくい、モルタル等塗壁）	●金山型住宅への建て替え ●建築物・工作物の修景 ●古い建物の保存・復元

上記および先述した本事例の特徴を踏まえ、本事例では、「親しみ・愛着、誇りの向上」、「地域活動団体の活動の発展」、「地場産業の活性化」を主な調査対象とする。



#### I-1-4 調査実施にあたっての留意事項

特に本事例では、先に挙げた景観向上効果以外にも様々な効果が発現していることが想定された。したがって、それらをできるだけ多く、また正確に確認するため、以下に留意して各調査を実施した。

##### (1) ヒアリング調査

調査対象は、事業主体関係者と利用団体、金山型住宅の所有者とし、利用団体については、調査実施前に文献やホームページでの検索、行政担当者への問い合わせにより抽出した。

本事例では「親しみ・愛着、誇りの向上」、「地域活動団体の活動の発展」、「地場産業の活性化」を中心に把握するため、ヒアリング項目として、利用団体に対しては「当該整備施設に対する意識の変化」、「団体の活動内容、団体発足のきっかけ、他団体・行政等との連携」、「当該事業と地場産業との関わり」等を設定した。また、事業主体関係者に対しては、当該事業と地場産業との関わりに加え、「地元活動団体の利用状況」や「事業をきっかけとしたさまざまな変化」等を設定した。

ヒアリング調査の際に留意した点、調査方法の課題として以下の点が挙げられる。

- ・事前に想定された効果以外についても把握するよう努める。その際、効果の発現の経緯やほかの効果との関係性についても可能な限り確認する。
- ・ホームページ等を開設していない団体もあるため、利用団体のネットワークを頼り、ヒアリング対象として新たに関係する団体を紹介してもらう。特に、代表者（キーパーソン）を紹介してもらう。
- ・ヒアリングを依頼する際に、関連する資料や写真等を用意してもらう。これらの資料は、客観的資料として結果を取りまとめる際に説明力を持つ。しかし、その事前説明が不十分であったため、整備前後を比較できるような写真を多く収集できなかった点に改善の余地がある。

##### (2) 現地観測調査

利用状況を把握するのに最も効果的である現地観測調査は、平日、休日に実施した。特に本事例の整備対象は、点在する公園や網目のように張り巡る生活道路など多岐にわたるため、滞留型・通過型両方の利用を同時にとらえる必要があった。また事前ヒアリングにより、地元住民による自発的な清掃活動や当番制の活動等の日常的利用は、早朝からみられることが分かっていたため、調査員2～3人による巡回調査を5時から18時まで行った。

現地観測調査の際には、地元活動団体による代表的なイベント等がみられる事例においては、日常的な利用だけでなく、その状況を把握することも重要である。

調査方法は、写真撮影と併せて、利用の内容を地図上にプロットする記録を行った。また、

利用状況をより正確に把握するために、滞留利用者を中心に、利用目的や整備前後の利用の変化、整備前後の住環境の変化等についての聞き取りを並行して行った。

### (3) アンケート調査

アンケート調査は、日常的に利用する本整備地区内の全世帯(約 700 世帯)を対象に行った。一般的に、“意識を調査する場合、100 以下のサンプル数では安定した結果は得られない”“郵送による調査の回収率は低く 20~30%程度”と言われていることと、かつて金山町により実施されたアンケートで 50%程度の回収率だったことを踏まえ、配布は対象となる全戸への郵送により行った。なお、回収率を大きくするため、本調査は事業者である金山町との共同実施とした。

調査項目は、先に挙げた調査対象のうち、「親しみ・愛着、誇りの向上」や整備された空間に対する認知・印象といった意識の変化を中心に把握した。

アンケート調査の際に留意した点として、以下のような内容が挙げられる。

- ・調査項目の設定や表現については、事前に行政担当者や地元活動団体の方に確認を頂き、地元の感覚で違和感のない設問となるよう工夫した。
- ・設問は選択肢のほかに自由解答欄を儲け、選択の理由や選択肢以外の回答を把握できるよう工夫した。また、対象とした整備地区の地図上への記入による回答欄も設け、回答者の想起を促すよう工夫した。
- ・本事例においては、回答者の多くが高齢者となることが予想されたため、表現はできるだけ平易なものとし、その構成についても、比較的回答しやすいと思われる現状の印象評価から始めるなど、留意した。

以下、参考として、具体的設問内容を示す。





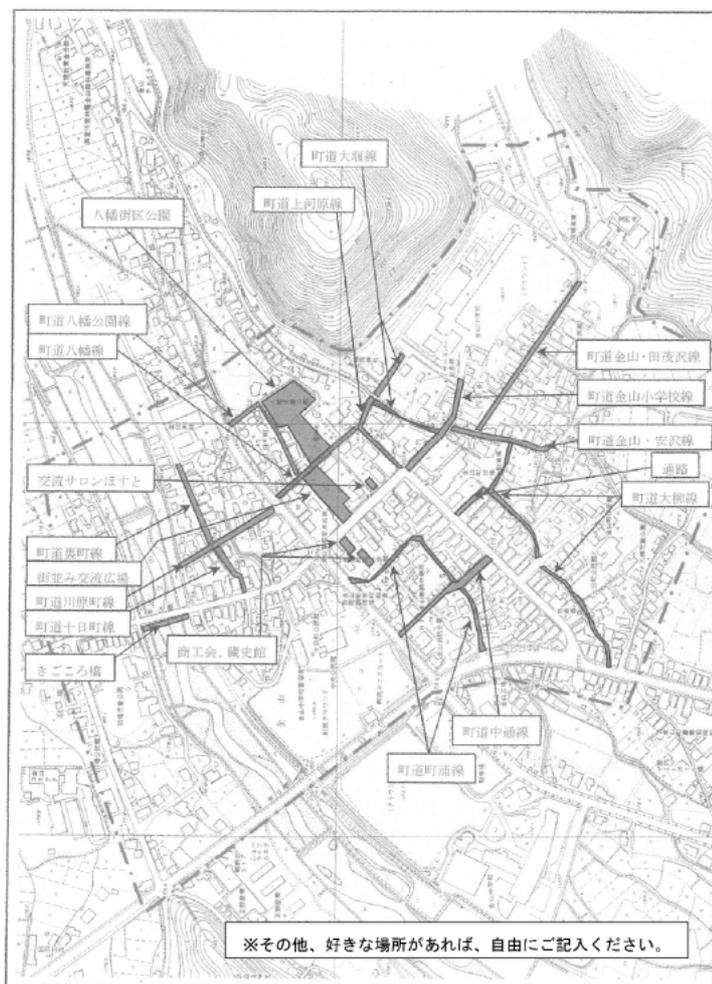
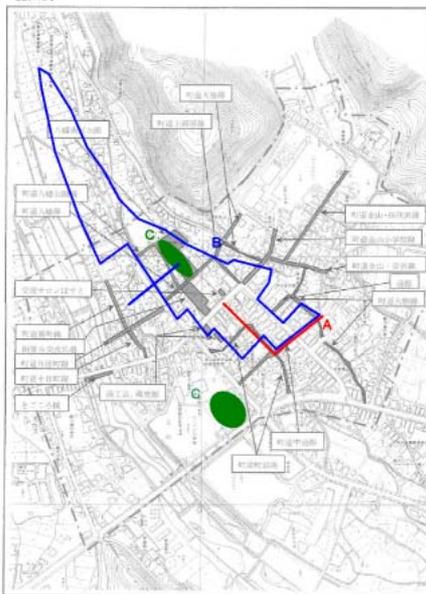
問7 これまでに、金山町で取り組まれてきた街並み（景観）づくりについて、感じていること、思っていることがございましたら、自由にお書きください。（自由回答）

◆『金山の街並み（屋外）』での、普段の過ごし方について、お伺いします

問8 『金山の街並み（屋外）』での普段の過ごし方について、A～Cそれぞれについて該当する箇所を、下図の描き方を参考にして、右図内にお書きください。

- A 通勤や通学、買い物などで、毎日のように歩いて使うみち
- B 散歩、ジョギング、寄り道をするときによく通る、自分の好きなみち
- C 休憩したり、運動したりするときに、よく過ごす自分の好きな公園・広場

記入例



問9 問8で、「好きなみち」「好きな公園・広場」「好きな場所」として記入していただいたところについて、そこが好きな理由をそれぞれ教えてください。（自由回答）

### ◆かつての金山の街並み（景観）について、お伺いします

問10 今のお住まいに住み始めた年代として、該当するものを選択してください。

- 1 ～1959年（～昭和34年）
- 2 1960年代（昭和35～44年）
- 3 1970年代（昭和45～54年）
- 4 1980年代（昭和55～平成元年）
- 5 1990年代（平成2～11年）
- 6 2000年以降～（平成12年～）

問11 金山町に住まい始めたきっかけについて、よろしければ教えてください。（自由回答）

問12 それから今までの間で、もっとも印象に残っている／記憶に残っているのは、どの年代の風景ですか。該当するものを選択してください。

- 1 ～1959年（～昭和34年）
- 2 1960年代（昭和35～44年）
- 3 1970年代（昭和45～54年）
- 4 1980年代（昭和55～平成元年）
- 5 1990年代（平成2～11年）
- 6 2000年以降～（平成12年～）

問13 問12でお答えいただいた当時の風景はどのようなものか（特徴や雰囲気など）、自由にお書きください。（自由回答）

問14 当時と現在を比べて、金山の街並み（景観）に対する思いは変わりましたか。以下より、該当するものをすべて選択してください。（複数回答可）

- 1 印象が良くなった
- 2 親しみや愛着（離れがたい気持ち、大切にしていきたい気持ち）が強くなった
- 3 誇りに思う気持ちが強くなった
- 4 特に変わらない
- 5 その他（ ）

### ◆あなたのご自宅や店舗についてお伺いします

問15 あなたのご自宅（店舗）は“金山型住宅”ですか。該当するものを選択してください。

- 1 昔からの伝統的な金山型住宅である（建築年 年）
- 2 町から助成を受けて建てた、“新しい金山型住宅”である（建築年 年）
- 3 “金山型住宅”ではない（建築年 年）

問16 あなたのご自宅（店舗）を建てた（改築を含む）際、建物の外観を、周囲の街並み（景観）に配慮して整備しましたか。

- 1 配慮して整備した（整備した年 年）
- 2 整備したが、特に配慮したことはない（整備した年 年）
- 3 整備していない
- 4 わからない

問17 あなたのご自宅（店舗）の外周りをしつらえた際（庭、水路、倉庫、塀・垣など）、周囲の街並み（景観）に配慮して整備しましたか。

- 1 配慮して整備した（整備した年 年）
- 2 整備したが、特に配慮したことはない（整備した年 年）
- 3 整備していない
- 4 わからない

⇒問15で「2 町から助成を受けて建てた、“新しい金山型住宅”である」、または問16、問17で「1 配慮して整備した」を選択した方にお聞きします。

問18 そのきっかけとして、該当するものを選択してください。(複数回答可)

- 1 近隣の家屋が、“金山型住宅”に建て替えたのを見て
- 2 近隣で、家屋・家屋周りをよく手入れしているのを見て
- 3 街並み(景観)に対する町主体の取組みの存在を知って
- 4 その他( )

問19 今後、ご自宅の建物の建替えや建物の周りを整備するご意向はございますか。該当するものを選択してください。(複数回答可)

- 1 機会があれば、ぜひ“金山型住宅”に建て替えたい
- 2 建替えの機会があっても、“金山型住宅”にしたいとは思わない
- 3 機会があれば、周囲の街並み(景観)に配慮して建物の外観を整備したい
- 4 機会があれば、周囲の街並み(景観)に配慮して自宅(店舗)の外周りを整備したい
- 5 その他( )

問20 今後も金山町に住み続けたいと思いますか。あなたのご意向をお聞かせください。また、その理由についてご自由にお書きください。

- 1 住み続けたいと思う
- 2 住み続けたいとは思わない

『金山町の街並み(景観)』について今後期待することや、ご意見などがございましたら、下欄にご自由にご記入ください。

#### ◆最後に、本アンケートにご記入いただいたあなた自身についてお伺いします

あなたの年齢やご職業についてお答えください。

(1) 年齢:

- 1 10歳代 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代
- 5 50歳代 6 60歳代 7 70歳代 8 その他

(2) 住居形態:

- 1 戸建住宅 2 店舗(事務所)兼住宅 3 アパート・マンション 4 その他

(3) 主な職業:

- 1 自営業 2 会社員 3 パートタイマー 4 兼業農家
- 5 専業主婦 6 無職 7 学生 8 その他

ご協力、ありがとうございました。

## I-2 調査結果

### I-2-1 各手法における調査結果概要

ここでは、各調査手法別に、その実施の概要と結果をとりまとめたものの一部を示す。

#### (1) ヒアリング調査

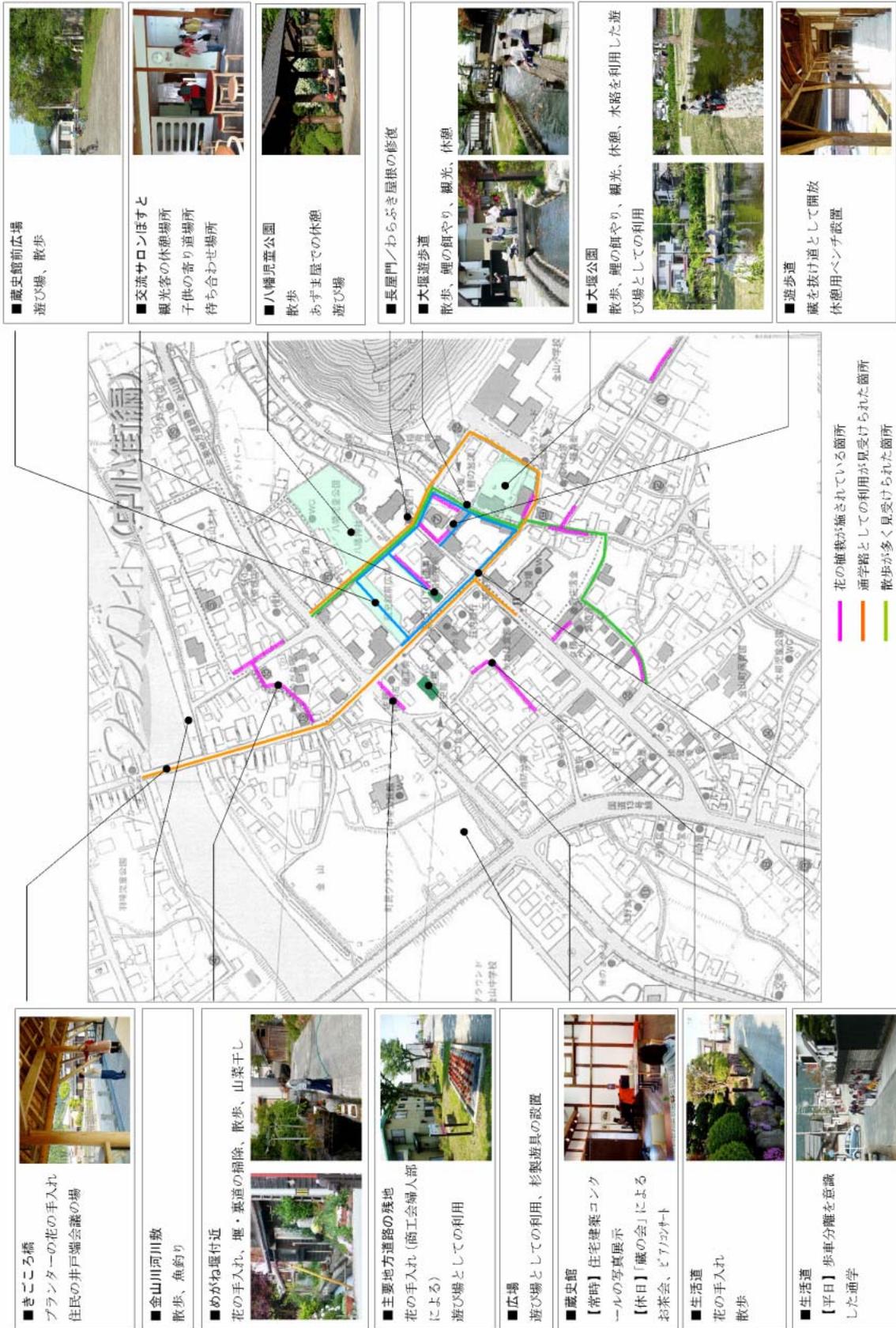
本事例では、下表のように、地元活動団体と金山杉を活用した地場産業に関わる団体を中心にヒアリング調査を実施した。調査にあたっては各団体に2時間程度を費やし、発現している効果の内容とその経緯について伺った。

ヒアリング調査により把握できた効果は対象とした団体により様々であったが、総じてみると、「意識に与える効果」、「活動に与える効果」、「周辺の空間に与える効果」、「地域経済に与える効果」とまんべんなく確認することができた。

対象		把握できた主な効果
行政	現在の担当者 (産業課商工景観交流係)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活動団体の活動の発展</li> <li>・ 金山型住宅への建替え、裏道に面する箇所への修景</li> <li>・ 地場産業の活性化</li> </ul>
	金山町森林組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観やまちづくりに関する意識の高まり</li> <li>・ 地場産業の活性化</li> </ul>
利用者	「蔵の会」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用の多様化</li> <li>・ 景観やまちづくりに関する意識の高まり</li> <li>・ 地域活動団体の活動の発展</li> </ul>
	「街並み案内人の会」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親しみ・愛着、誇りの向上</li> <li>・ 景観やまちづくりに関する意識の高まり</li> <li>・ 地域活動団体の活動の発展</li> </ul>
	「鯉を愛する会」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 維持管理活動の実施</li> <li>・ 地域活動団体の活動の発展</li> <li>・ 建築外構の変化</li> </ul>
	渡部建築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観やまちづくりに関する意識の高まり</li> <li>・ マスコミ・マスメディア掲載の増加</li> </ul>
	岸家具店	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地場産業の活性化</li> </ul>
	金山町商工会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントの開催</li> </ul>

#### (2) 現地観測調査

本事例では、確認できた平日と休日との差は利用人数の違い程度で、利用内容について大きな差は確認されなかった。ただし、早朝(5時台)からの多くの利用(散歩や清掃活動等)や、ヒアリング調査対象とした地域団体による活動の様子、他県からのツアーなどの利用が確認できた点は特徴的であり、様々な「活動に与える効果」について把握することができた。

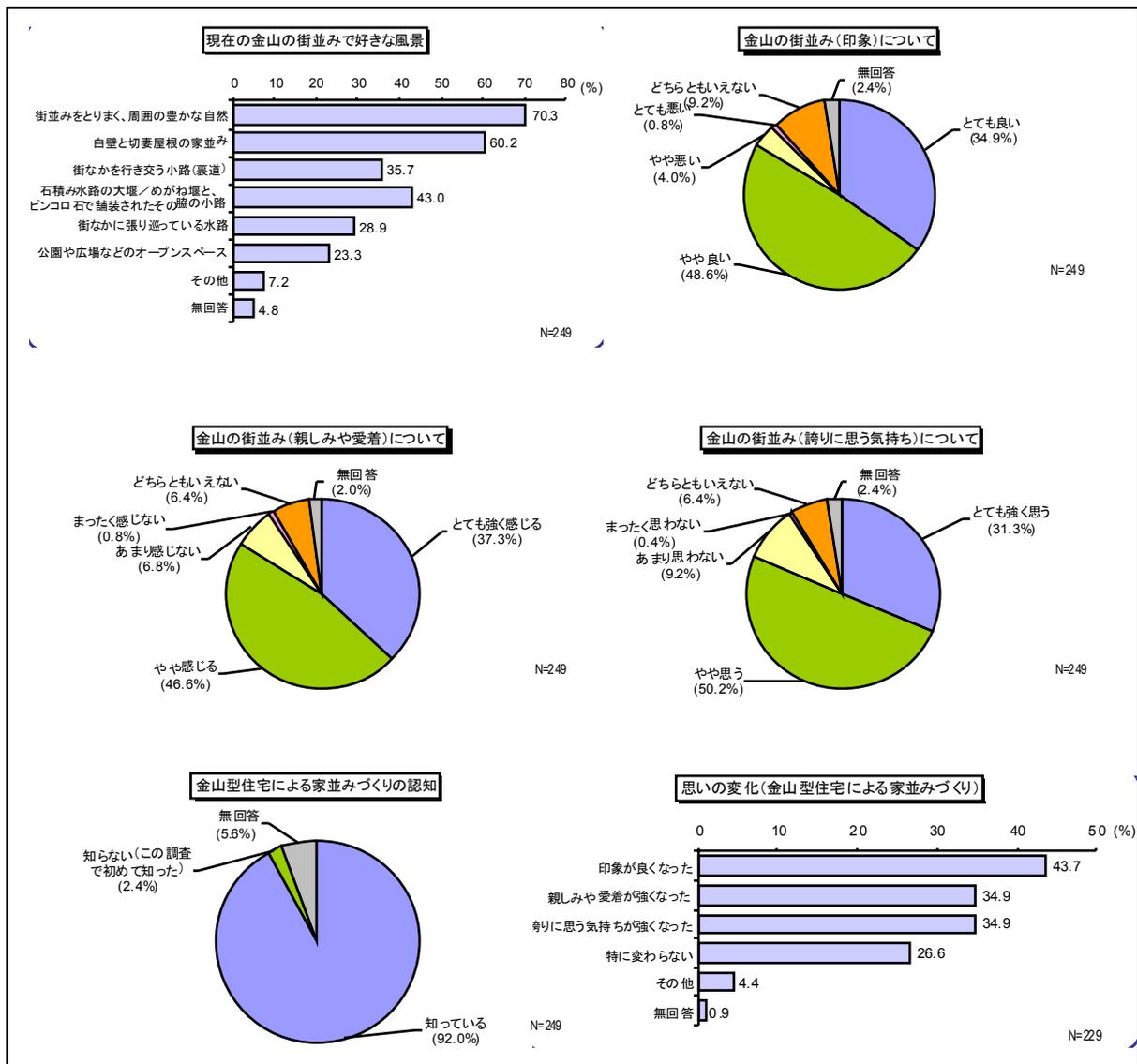


### (3) アンケート調査

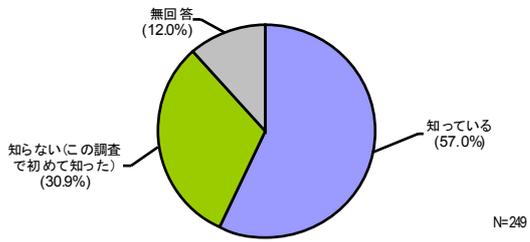
回収数は 249/691 通で、回収率は 36%であった。一般的に、本事例のように郵送によるアンケート調査の回収率は 20~30%程度と言われており、この結果は特別なものではないと言えよう。ただし、金山町が以前実施したアンケートでは半数程度の回収率であったことを考えると、本調査では質問項目を多く設けたが、これが逆に回収率を下げる要因であったと考えられる。しかしながら、回収率を上げることばかりに執着し、安易に質問数を少なくすることは避けるべきであり、質問内容の充実を図ることが重要である。

なお、自由解答欄や地図上への図示についても多くの回答が得られ、より多様な効果や具体的な利用者の思いを把握したい場合、また地図上で効果を把握したい場合には、そのような欄を設けることも有効であると考えられる。

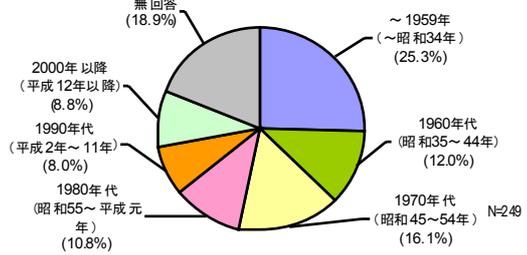
以下、単純集計結果（一部）を紹介する。



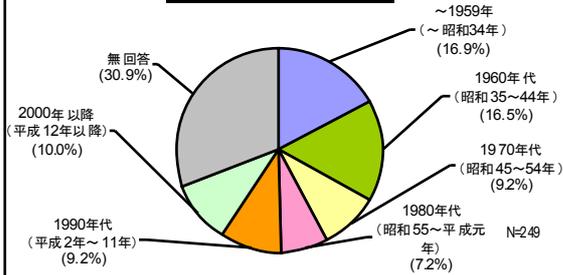
金山町の景観関係表彰受賞歴の認知



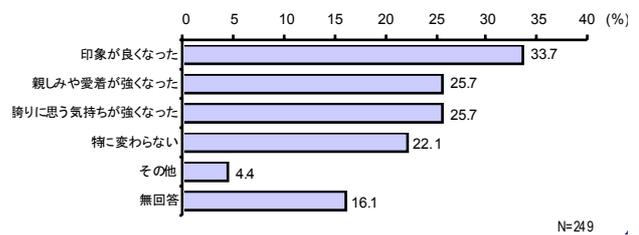
現在の住まいに住み始めた年代



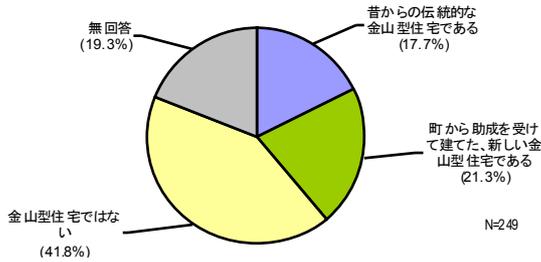
最も印象・記憶に残っている年代



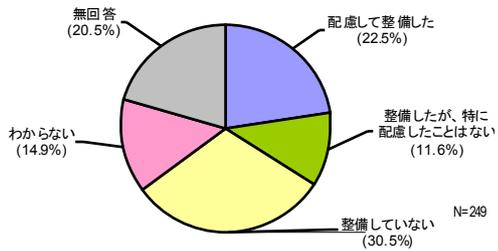
当時と現在を比べて、金山の街並みに対する思いの変化



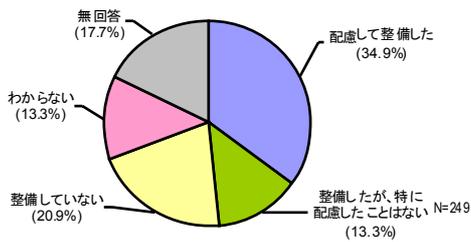
自宅・店舗が金山型住宅かどうか



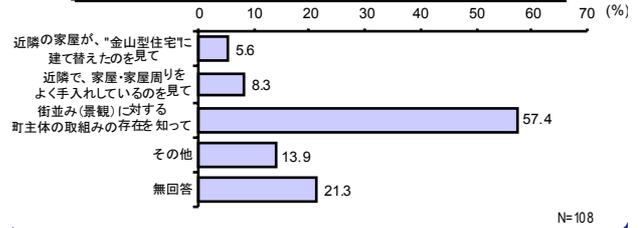
外周りをしつらえた際、景観に配慮したかどうか



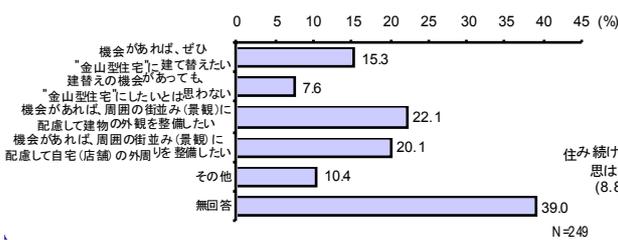
自宅・店舗を建築・改築する際、外観を景観に配慮したかどうか



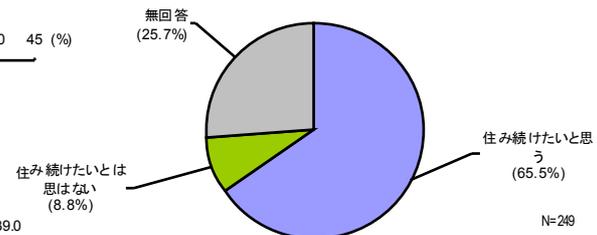
町から助成を受け新しい金山型住宅を建てた、景観に配慮して整備したきっかけ



今後の自宅建替え、外周りの整備の意向



金山町への定住意向



### I-2-2 確認された景観向上効果

想定された効果すべてが、調査により確認された。特に、調査時に主な調査対象とした「親しみ・愛着、誇りの向上」、「地域活動団体の活動の発展」、「地場産業の活性化」についても、それぞれ顕著な効果として確認することができた。また、当初想定していなかった効果として、下記が新たに確認された。

- ① メディアの露出増加
- ② 外部機関による表彰など、外部評価の高まり
- ③ スケッチや写真撮影などの対象としての利用
- ④ 施設内に生息する生き物とのふれあいの場としての利用
- ⑤ 来訪者のもてなしの場としての利用
- ⑥ 観光客の増加
- ⑦ 整備後の新たな地域活動団体の発足

以上の結果より、文献資料等より読み取った本事業の景観形成の目標「1. 人と自然との関わりづくり、人と自然との共生（調和）づくり」「2. 美しい街並みの形成とC I（コーポレート・アイデンティティ）化、地域の個性化」「3. 地域風土、地域材、在来工法等、杉を中心とした地域資源の有機的結合」は、概ね達成されつつあると考えられる。

なお、上記当初想定していなかったが新たに確認された効果のうち、①、②、⑤、⑥、⑦はヒアリング調査により、また③、④については定点観測調査により確認された。

①確認された景観向上効果

景観整備による効果	調査結果	調査手法
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">整備された空間に対する認知・印象</p>	<p>①整備した空間の機能向上に対する認知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水路には、かつてゴミがたくさん流れていたが、整備されたから皆ゴミを捨てなくなった</li> <li>・堰へ鯉を放流してから、水がきれいになり、ホテルが見られるようになった</li> <li>・公園が整備されてから、子どもを連れて遊びに来る人が増えた</li> </ul>	<p>ヒアリング (地元団体 地元住民)</p>
	<p>②整備した空間の印象の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の金山の街並み（景観）に対する評価「とても良い」「やや良い」（84%）</li> </ul> <p>金山の街並み(印象)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「街並みを取りまく、周囲の豊かな自然の風景が好きだ」(70%)</li> <li>・「白壁と切妻屋根の家並みの風景が好きだ」(60%)</li> <li>・「石積み水路の大堰/めがね堰と、ピンコロ石で舗装されたその脇の小路の風景が好きだ」(43%)</li> <li>・「街なかを行き交う小路（裏道）の風景が好きだ」(36%)</li> <li>・「街なかに張り巡っている水路の風景が好きだ」(29%)</li> <li>・「公園や広場などのオープンスペースの風景が好きだ」(23%)</li> <li>・「水路から聞こえる水音が好きだ」</li> <li>・現在の街並み（景観）を、金山に住まい始めた当時と比べて「印象が良くなった」(34%)</li> </ul>	<p>アンケート (N=249)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">意識に与える効果</p>	<p>①親しみ・愛着、誇りの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「（今現在の）金山の街並み（景観）に親しみ・愛着を感じる」（84%）</li> </ul> <p>金山の街並み(親しみや愛着)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「金山に住まい始めた当時と比べて、今現在の金山の街並み（景観）の方が親しみ・愛着が強くなった」（26%）</li> </ul>	<p>アンケート (N=249)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「（今現在の）金山の街並み（景観）を誇りに思う」（82%）</li> </ul> <p>金山の街並み(誇りに思う気持ち)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「金山に住まい始めた当時と比べて、今現在の金山の街並み（景観）の方が誇りに思う気持ちが強くなった」（26%）</li> <li>・住宅に対する自尊心の高まり</li> <li>・“住宅建築コンクール”の開催や、当時のメディア掲載増加を通じて、“金山大工”の自己の働きに対する誇り、責任感の高まり</li> </ul>	<p>アンケート (N=249)</p> <p>文献</p>
<p>②地域らしさの認知</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他地域との交流（羽州街道交流会）を通じた、金山らしさについての認知</li> </ul>	<p>文献</p>

	<p>③景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（裏道の整備を通じた）住民の“裏”への意識の向上</li> <li>・来訪者（視察者・観光客）の増加をきっかけとした、景観・環境等に対する地元住民の意識の高まり （→各種美化活動の進展、もてなしの場の創出、街並み案内の開始、住民・行政の有志による海外視察研修）</li> </ul>	<p>文献、ヒアリング （地元団体）</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">活動に与える効果</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">住民の日常生活での利用に与える効果</p>	<p>①利用の増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩や寄り道のときに裏道を使うようになった</li> <li>・子どもたちの遊び場としての利用</li> </ul>  <p style="text-align: center;">広場で遊ぶ子どもたち</p>	<p>アンケート （N=249）、ヒアリング （地元団体）</p>
	<p>-----</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回遊経路の延長</li> </ul>	<p>ヒアリング （地元団体）</p>
	<p>②利用の多様化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水生動物との触れ合い活動の発生</li> <li>・地元住民創作の絵や生花等の展示</li> <li>・地元住民演奏のコンサート開催</li> </ul>  <p style="text-align: center;">公園の四阿で読書する親子</p>  <p style="text-align: center;">大堰で鯉と触れ合う家族</p>	<p>アンケート （N=249）、ヒアリング （地元団体）</p>
	<p>-----</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民・行政の有志による海外視察研修</li> <li>・地元小学校における景観教育の実施（3年生、総合学習・国語・図工、年間10時間） （国交省HP「景観まちづくり教育」より： <a href="http://www.mlit.go.jp/crd/townscape/gakushu/data2/jirei_all.pdf">http://www.mlit.go.jp/crd/townscape/gakushu/data2/jirei_all.pdf</a>）</li> </ul> 	<p>文献、ヒアリング （地元団体）</p>
<p>-----</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者が街並みをスケッチ・写真撮影するようになった</li> </ul>  <p style="text-align: center;">公園に佇んでスケッチ</p>  <p style="text-align: center;">観光客による記念撮影</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者をもてなし場としての利用 （蔵史館、きごころ橋、公園の四阿等における抹茶接待）</li> </ul>	<p>定点観測</p> <p>ヒアリング （地元団体）</p>	

団体活動・維持管理活動に与える効果	③コミュニティの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裏道は、近隣住民同士が日常的に花木の手入れや清掃をしながらの会話する場となっている。それと同時に、来訪者と地元住民との会話の場ともなっている</li> <li>・屋根付き橋“きごころ橋”が、地元住民同士の会話の場となっている</li> </ul>		現地観測
	①イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵史館前での“あおぞら市”の開催（4-5月）（地元特産品の販売等。東北近県から来客）</li> <li>・公園での“自然祭（じねんまつり）”の開催（6月）（苗木の無料配布、食品販売、等）</li> </ul>		ヒアリング
	②維持管理活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十日町地区クリーン作戦（毎年6月実施）</li> <li>・冬季における鯉の冬囲い、雑魚（ざっこ）祭りの開催</li> </ul>		ヒアリング （地元団体）
	③地域団体の活動の発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工会による“花いっぱい運動”の実施</li> <li>・住民個人による裏道の緑化</li> <li>・来訪者による裏道の緑化</li> </ul>	  <p>商工会“花いっぱい運動”      個人による裏道の緑化</p>	文献、ヒアリング （地元団体）
	③地域団体の活動の発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな地域活動団体の発足（鯉を愛する友の会、蔵の会、街並み案内人の会、Wage stars）</li> <li>・地域活動団体の活動内容の進展（森林組合による、ストリートファニチャー等の設計デザインの推進／地元住民と行政による海外視察研修の毎年の実施）</li> <li>・団体規模の拡大（鯉を愛する友の会：S63 発足当時6名→現在42名）</li> <li>・他地域・他団体との交流・連携（地区と森林組合とが連携した、清掃等の地区作業の推進／婦人連合会と商工会、茶道愛好会とが連携した、毎週末における来訪者へのお茶出し／町へ進出した企業の経営陣の、町内団体・組織・活動への積極的参加／海外視察研修を通じた他の自治体、あるいは類似テーマをもつ地元団体との交流の促進／他地域の大学生との交流：山形大学「農山村地域づくり」のフィールドワークの場として）</li> </ul>		文献、ヒアリング （金山町、地元団体）

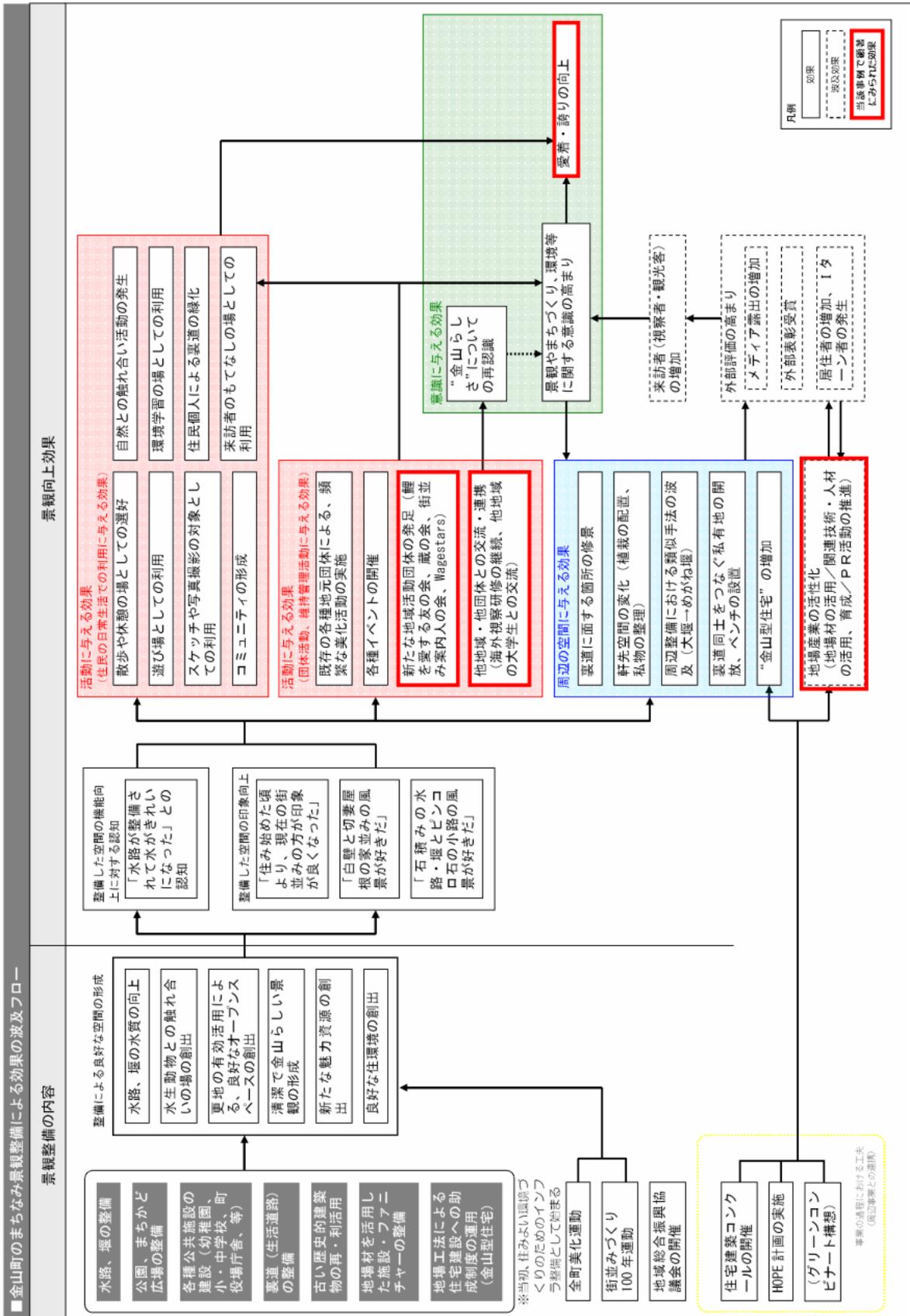
景観整備による波及効果		調査結果	調査手法
周辺の空間に与える効果	隣接する空間整備に与える効果	① 建物の形態、ファサード、意匠等の変化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・裏道に面する箇所への修景（朽ちた納屋への板壁の設え、住宅の色彩変更、等）</li> <li>・「自宅（店舗）を建築・改築したとき、周囲の街並み（景観）に配慮して外観を整備した」（87/120名）</li> <li>・住まい手が居なくなった家屋の庭を開放して裏道同士をつなぎ、誰でも自由に通り抜けられるようにした</li> </ul> 	文献 アンケート  現地観測
		② 建築外構の変化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水路に面した箇所への植栽の施し</li> <li>・雑多な生活用品の整理</li> <li>・「自宅（店舗）の外周り（庭、水路、倉庫、塀・柵など）を整備したとき、周囲の街並み（景観）に配慮した」（56/85名）</li> <li>・裏道同士をつなぐ私有地に、地場材のベンチを設置</li> </ul>	文献、 現地観測、 ヒアリング （地元団体） アンケート （N=249）
	周辺の空間整備に与える効果	① 周辺施設整備との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・後年における周辺整備（事業地区内）における類似手法の波及（大堰→めがね堰）</li> </ul>	文献
		② 観光振興 <ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者の増加（視察者の増加／観光客の微増：近年約9万人/年／観光ツアー客の来訪）</li> </ul> 	文献、 ヒアリング （金山町、 地元団体）、 現地観測
地域経済に与える効果	① 地場産業の活性化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地場材（金山杉）の活用（商工会建築部会による、地場材を用いたファニチャーの創作／町内の全公共建築の建設における地場材の活用／「花環境整備事業」を通じた、地元生産農家の安定した花木の供給）</li> <li>・地場産業をとりまく技術・人材の活用、育成（主要産業の林業と住宅産業等の関連産業の活性化を図った施策の策定・推進“グリーンコンビナート構想”／地場工法による住宅を対象とした“住宅建築コンクール”の開催を通じた、“金山大工”等の人材活用・育成／HOPE計画の推進を通じた、林業と地元工務店との良好な関係性の構築→有限会社の設立、ビジネス展開／森林組合によるストリートファニチャー等の設計デザインを通じた、地場材の活用におけるスキルアップ／首都圏などの大市場への参入／他県への地場材住宅の指導）</li> <li>・地場産業に関わるPR活動（商工会による、関連パンフレット作成・製品販売促進）（製作元・価格等を記した地場材製品の設置）</li> </ul>	文献、 ヒアリング （地元団体）	
	② 観光振興 <ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者の増加（視察者の増加／観光客の微増：近年約9万人/年／観光ツアー客の来訪）</li> </ul> 	文献、 ヒアリング （金山町、 地元団体）、 現地観測	

外部評価の高まり	①外部機関（専門家）からの表彰等	・外部機関からの表彰（(社)経済同友会「第1回美しい都市づくり賞」昭和60年度、建設省「手づくり郷土賞」平成4年度、(社)日本建築学会「日本建築学会賞」平成14年度、等）	文献
	②マスコミ・メディア掲載の増加	・マスコミ・メディア掲載の増加（“住宅建築コンクール”の実施をきっかけとして）	文献
	③居住者の増加	・居住者の増加、Iターン者の発生	ヒアリング（金山町、地元団体）

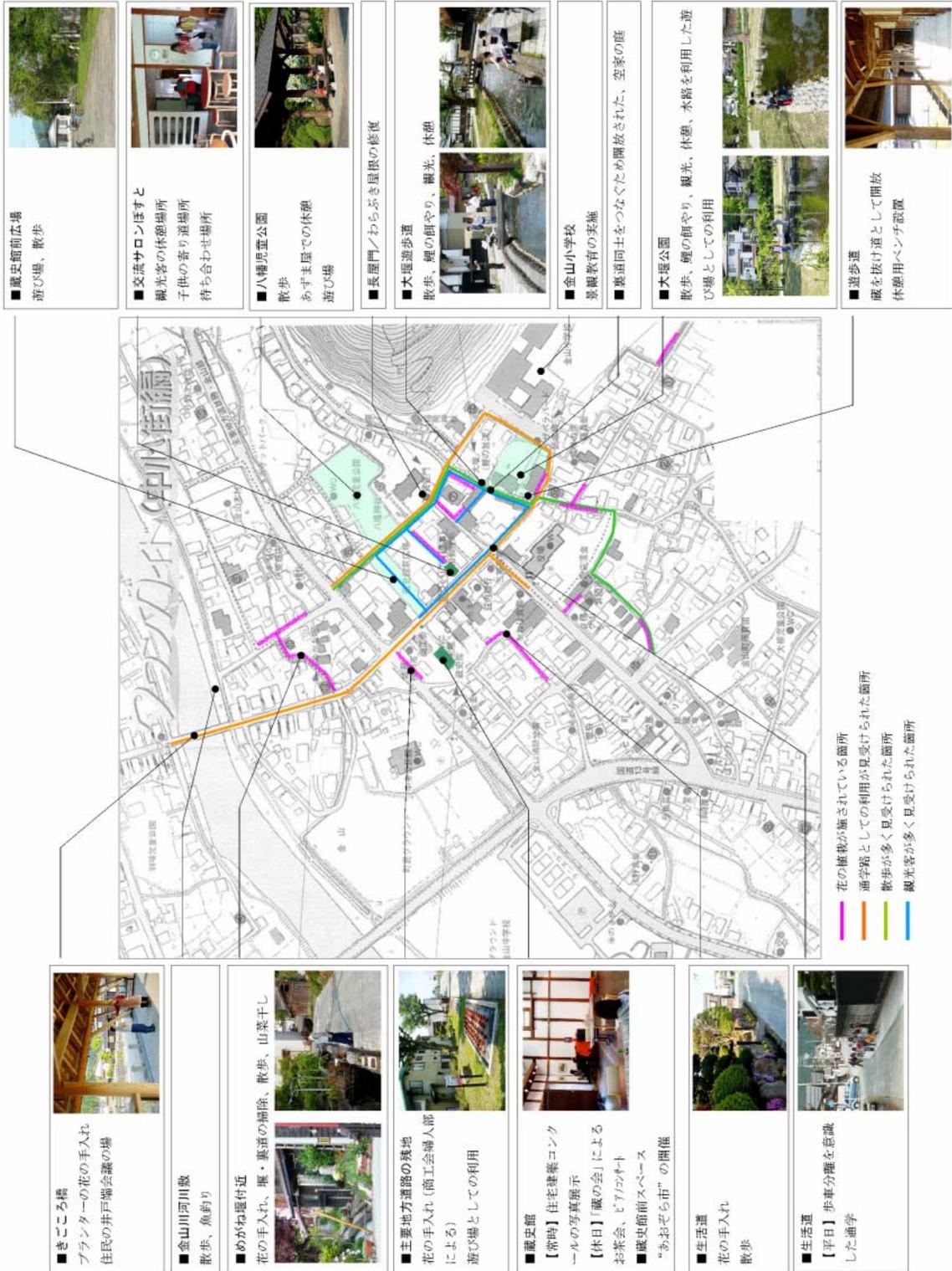
### I-3 考察および取りまとめ

以上により整理された、景観整備の内容と景観整備による効果、およびその波及フローは、下記のように示すことができた。各効果項目同士をつなぐ矢印は、主にヒアリング調査結果に基づいており、その因果関係が関係者により語られたものである。

②効果の波及フロー図



③プロット図



## II 太田川基町環境護岸（広島県広島市中区基町、河川）

### II-1 調査設計

#### II-1-1 事業条件の整理

調査実施にあたり、文献資料を参考に、下記のように事業条件を整理した。

【事業名】	太田川基町環境護岸	【事業分野】	河川
【事業対象・規模】	対象：旧太田川左岸基町地区、相生橋から上流に約 800m の区間（広島県広島市中区基町）のうち、調査対象は空鞆橋上流部 規模：L:約 880m、堤防高 5m (H.W.L:4.4m+余裕高 0.6m)		
【事業主体】	国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所	【周辺関連事業】	(構想・制度) ・水の都整備構想策定（平成 2 年） ・水の都モデル整備計画策定（平成 6 年） ・水の都ひろしま構想策定（平成 15 年）
【景観検討の段階】	構想・計画・設計・施工・維持管理		
【事業期間・施工】	昭和 54 年(着手) ～ 昭和 58 年(1983 年竣工)		

#### 【事業概要】

広島市内を流れる太田川には戦災復興の区画整理事業によって川岸緑地が設けられ、良好な水辺空間として広島市のシンボルとなっていた。しかし、太田川の堤防は、高潮対策として堤防高上工事が計画され、河岸緑地の景観悪化が懸念されていた。そこで、東京工業大学協力の下、景観に配慮した河川環境整備の基本設計が立案され、太田川基町護岸が造られた。1983（昭和 58）年の竣工後は多くの広島市民の憩いの場として利用され、広島市発行図書、新聞、報告書などで好評を得ている。

本事業の設計意図は概ね達成されており、景観に配慮した護岸のデザイン事例が少ない当時においては先駆的存在として認知され、その後の多くの事業の規範として貢献していくこととなった。その功績が讃えられ、2003（平成 15）年には本事業は土木学会デザイン賞特別賞を受賞している。

以上、本事業の景観形成の目標像は以下の 4 つと読み取ることができる。

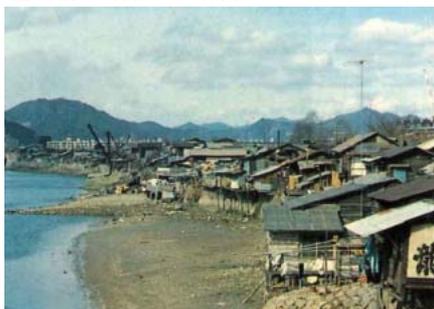
- 「1. 水辺と市民の関係の復活」「2. 山紫水明となる周辺の自然との調和（歴史的な景観の継承）」
- 「3. 伝統的な工法の再評価」「4. 背後施設との一体的な空間の形成」



図 対象範囲位置（整備対象範囲（赤実線）、調査対象範囲は空鞆橋上流（赤破線）

#### 【整備前後の写真】

##### 整備前（昭和 50 年頃）



##### 整備後



出典：「太田川史」平成 5 年 3 月、建設省中国地方整備局太田川工事事務所

本事例は、昭和 58 年竣工から約 25 年が過ぎており資料収集等が心配されたが、計画・設計にまつわる資料や事業に関連する資料が多数存在したことは、事業に対する認識の高さ、計画・設計者、関係者等の意識の高さの表れであると考えられる。

本事例について現在の目線から見たとき、整備の主な特徴として、「**景観に配慮した河川護岸デザインの先駆的な事例である**」、「**地域のシンボルとして顔となる空間を形成した**」ということが言える。

### Ⅲ－１－２ 調査対象とする景観向上効果の選定

ここでは、文献資料を中心に、事業者である国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所へのヒアリング調査結果を併せて、① 計画・設計者の意図および景観に配慮した具体的な内容、② ①から想定された景観向上効果、について下記のように整理した。

計画・設計の意図	景観に配慮した内容	想定された効果
<b>A. 水辺と市民の関係の復活</b>		
1 親水性の向上	○階段を設け水際への降り口をつくるなどの親水性を高めるデザイン	●利用形態・頻度の変化、地域活動（イベント・行事）の活性化
2 多様な利用を誘発する空間の創出	○イベントなどの多様な利用を創出するための緩やかな勾配の芝生広場のデザイン	●利用形態・頻度の変化、環境保全・学習活動、樹木の手入れ等維持管理等の取り組み ●オープンカフェ等の実施によるにぎわいの創出
<b>B. 歴史的な景観の継承</b>		
1 山紫水明となる周辺の自然との調和	○周辺の自然を意識した曲線的な護岸デザイン ○護岸への玉石積み採用	
2 象徴的な空間の創出	○シンボル樹として既存のポプラの活用 ○ポプラの活用のための護岸法線のデザイン ○法尻部への桜の植樹による長寿園の桜の復元	●シンボル空間としての認識 ●維持管理等の取り組み
<b>C. 伝統的な工法の再評価</b>		
1 機能と形態の融合	○技術の復元に留まらず、景観に変化を与えるデザインの要素としての雁木の活用 ○石積みの活用	●歴史性の享受 ●新たな価値の発見
<b>D. 背後施設との一体的な空間の形成</b>		
1 堤防による背後施設との隔絶の解消	○堤防法尻部のゆったりした勾配による存在感をなくすようなデザイン ○堤防法尻部の植樹による背後の公園の緑との連続性	●中央公園とのスムーズなアクセス

上記および先述した本事例の特徴を踏まえ、本事例では、「**地域のシンボルとしての認知**」、「**親しみ・愛着、誇りの向上**」、「**利用の増加・多様化**」を主な調査対象とする。

II-1-3 調査手法と対象及び対象範囲

ここでは、上記の対象とする景観向上効果の把握のために、以下の調査方法と対象を設定した。

調査手法		対象	調査範囲等
アンケート調査	整備対象位置周辺の地元住民	基町護岸周辺居住者（①通行者、②基町住宅居住者、③施設周辺通勤者、④中央公民館利用者） ※回収結果：122票	 <p>アンケート配布範囲: ①基町護岸周辺に通勤、通学等で利用する人への配布 ②中央公民館利用者への配布</p>
	現地来訪者（観光客を含む）	映画上映会のイベント参加者 ※回収結果：83票	
ヒアリング調査	事業主体（行政）関係者	①国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所 ②広島市活性化局観光交流部交流課 ③広島市都市整備局都市計画課都市デザイン係	
	利用団体	①ポップラ・ペアレンツ・クラブ ②NPO法人雁木組 ③カフェテラス倶楽部 ④青空美術館	
現地観測調査		平日、休日	

## II-1-4 調査実施にあたっての留意事項

先に挙げた景観向上効果以外にも様々な効果が発現していることが想定される。したがって、それらをできるだけ多く、また正確に確認するため、以下に留意して各調査を実施した。

### (1) ヒアリング調査

調査対象は、事業主体関係者と利用団体とし、利用団体については、調査実施前に文献やホームページでの検索や行政担当者へ問い合わせにより抽出した。特に、本事例は、管理者である国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所が2006年7月に市民団体ポップラ・ペアレンツ・クラブ（以下、PPC）と管理協定を締結し、PPCが緑地の運営・管理を行っているため、利用団体についてはPPCの代表とこれを構成する複数の市民団体を対象とした。

ヒアリング項目として、利用団体に対しては、先に挙げた主な調査対象のうち、「**地域のシンボルとしての認知**」、「**親しみ・愛着、誇りの向上**」、「**利用の増加・多様化**」を中心に把握するため、「利用頻度、内容等の利用状況」、「イベントの開催状況」、「当該整備施設に対する意識の変化」等を設定した。また、事業主体関係者に対しては、利用状況に加え、「事業をきっかけとして実施した周辺の空間整備」や「PPCとの管理協定の締結の経緯」等を設定した。

ヒアリング調査の際に留意した点として以下の点が挙げられる。

- ・事前に想定された効果以外についても把握する。その際、効果の発現の経緯やほかの効果との関係性についても可能な限り確認する。
- ・ヒアリングを依頼する際に、関連する資料や写真等を用意してもらう。これらの資料は、客観的資料として結果を取りまとめる際に説明力を持つ。
- ・ホームページなどを開設していない団体などもあるため、利用団体のネットワークを頼り、ヒアリング対象として新たに関係する団体を紹介してもらう。特に、代表者（キーパーソン）を紹介してもらう。

### (2) 現地観測調査

現地観測調査は、利用状況を把握するのに最も効果的である。調査の概要は、平日、休日を実施し、調査員2～3人で7時から19時まで30分ごとに利用状況を確認した。

本事例はイベント等の団体活動の利用が盛んにおこなわれていることを事前に実施したヒアリング調査で把握していたため、休日の調査は映画上映会のイベント開催時に合わせて実施した。時間ごと、季節ごとなどに特徴的な利用がみられる事例においては、日常的な利用だけでなく、その状況を把握することも重要である。

調査内容として、先に挙げた主な調査対象のうち「**利用の増加・多様化**」について、本事例の対象範囲は緑地部分と遊歩道部分に大別されるため、緑地を中心とした滞留利用と遊歩道を

中心とした通過利用に分けて調査した。通過利用については、利用者数、内容、移動経路、手段を調査した。滞留利用については、場所、内容、滞留時間について調査した。

調査方法は、写真撮影と簡単な利用場所や経路等を地図上にプロットする記録を行った。また、利用状況をより正確に把握するために、滞留利用者を中心に、属性や利用目的などの聞き取りを並行して行った。

### (3) アンケート調査

アンケート調査は、日常的に利用する周辺居住者とイベント時の来訪者を対象に行った。

周辺居住者への配布方法は、本事例の対象地が市街地に近い住宅地で、対象範囲の設定が困難であったため、地元の市民団体に依頼し、通行者、基町住宅居住者、施設周辺通勤者への配布と、施設近くにある中央公民館へアンケート票を設置（2週間程度）し、これを回収した。イベントの来訪者へは、事前にイベント主催者と調整し、受付時に配布し、イベント終了時に回収することとした。

調査項目は、先に挙げた調査対象のうち、「地域のシンボルとしての認知」、「親しみ・愛着、誇りの向上」といった、対象施設に対する印象や認知、意識の変化を中心に把握した。

アンケート調査の際に留意した点、調査方法の課題として以下の点が挙げられる。

- ・調査項目の設定や表現については、協力を依頼した地元の市民団体の方に確認を頂き、地元の感覚で違和感のない設問となるよう工夫した。特に、周辺の他の水辺空間と比較する設問において、比較すべき代表的な水辺の抽出にアドバイスを頂くなど有効であった。
- ・対象施設をイメージしやすいよう、調査対象地の位置図を添付した。地図は、対象となる施設だけでなく、選択肢にあげた地区も網羅するものとした。
- ・設問は選択肢の他に自由回答欄を設け、選択の理由や選択肢以外の回答を把握できるよう工夫した。
- ・地元の市民団体へ依頼する方法は、ポスティング会社等に委託するよりも安価に調査を実施できる点、高い回収率が期待できる点で有効である。しかし一方で、回答者の属性に偏りが出る可能性が高いこと、網羅的な調査が困難なことが課題と言える。
- ・イベント時の調査について、野外映画上映会であったため、机などの安定したアンケートの記入場所が用意できなかった点に改善の余地がある。

以下、参考として調査票を示す。

<参考：アンケート調査票>

## ■調査対象地

本調査で対象としている「基町環境護岸（基町ポップラ通り）」とは、下図に示す空鞆橋上流の中央公園の背後の河岸緑地を指します。



(基町護岸周辺拡大)



■ 1. お答えいただく方についてお聞きします。

(該当するものに○をつけて下さい。)

1. 性別      ①男性      ②女性
  
2. 年齢      ①10代   ②20代   ③30代   ④40代   ⑤50代   ⑥60代   ⑦70代以上
  
3. 居住年数      (現在のお宅にお住まいの年数)  
    ①3年未満   ②3年以上～10年未満   ③10年以上
  
4. お住まい      \_\_\_\_\_区 \_\_\_\_\_町      (区町名をお答えください。)

■ 2. この場所（基町環境護岸）の利用についてお聞きします。

（該当するものに○をつけて下さい。）

5. 利用回数について、もっとも近いものをお答えください。

- ①ほぼ毎日 ②週に2～3回 ③週1回程度 ④月2～3回  
⑤月1回程度 ⑥年数回 ⑦年1回程度 ⑧ほとんど利用しない

6. 利用の目的は何ですか？（複数回答可）

- ① 通勤・通学・買い物などの日常的な通り道 ② 散歩 ③ 犬の散歩  
④ ウォーキング・ジョギング ⑤ 休憩 ⑥ 子連れでの遊び  
⑦ イベントへの参加または主催 ⑧ ピクニックなどのレクリエーション  
⑨ スポーツ ⑩ 清掃活動への参加 ⑪ 写真撮影やスケッチ  
⑫ 他の場所からここを眺めて楽しむ ⑬ 利用しない  
⑭ その他

■ 3. この場所（基町環境護岸）の印象についてお聞きします。

7. この場所にどの程度魅力を感じていますか？

AからCの各項目について、1～5のうち最も近いものに○をつけてください。

	非常に そう思う 1	そう思う 2	あまり 思わない 3	全く 思わない 4	どちらとも 言えない
1. 愛着やほこりを感じる場所	----- ----- ----- -----				+-----
2. 知人が広島に着たら紹介したい場所	----- ----- ----- -----				+-----
3. 広島顔となる場所	----- ----- ----- -----				+-----

8. この水辺のどこに魅力を感じますか？(複数回答可)

- ① 川と触れ合える雁木(階段)がある
- ② 山と川の景色が調和している
- ③ 街と川に一体感がある
- ④ 石積みの護岸に歴史的な雰囲気を感ずる
- ⑤ 休憩によい
- ⑥ 散歩によい
- ⑦ ポプラやニセアカシアなどの木の存在
- ⑧ 様々な使われていること
- ⑨ 特にない
- ⑩ その他

■ 4. この場所(基町環境護岸)と周辺の水辺についてお聞きします。

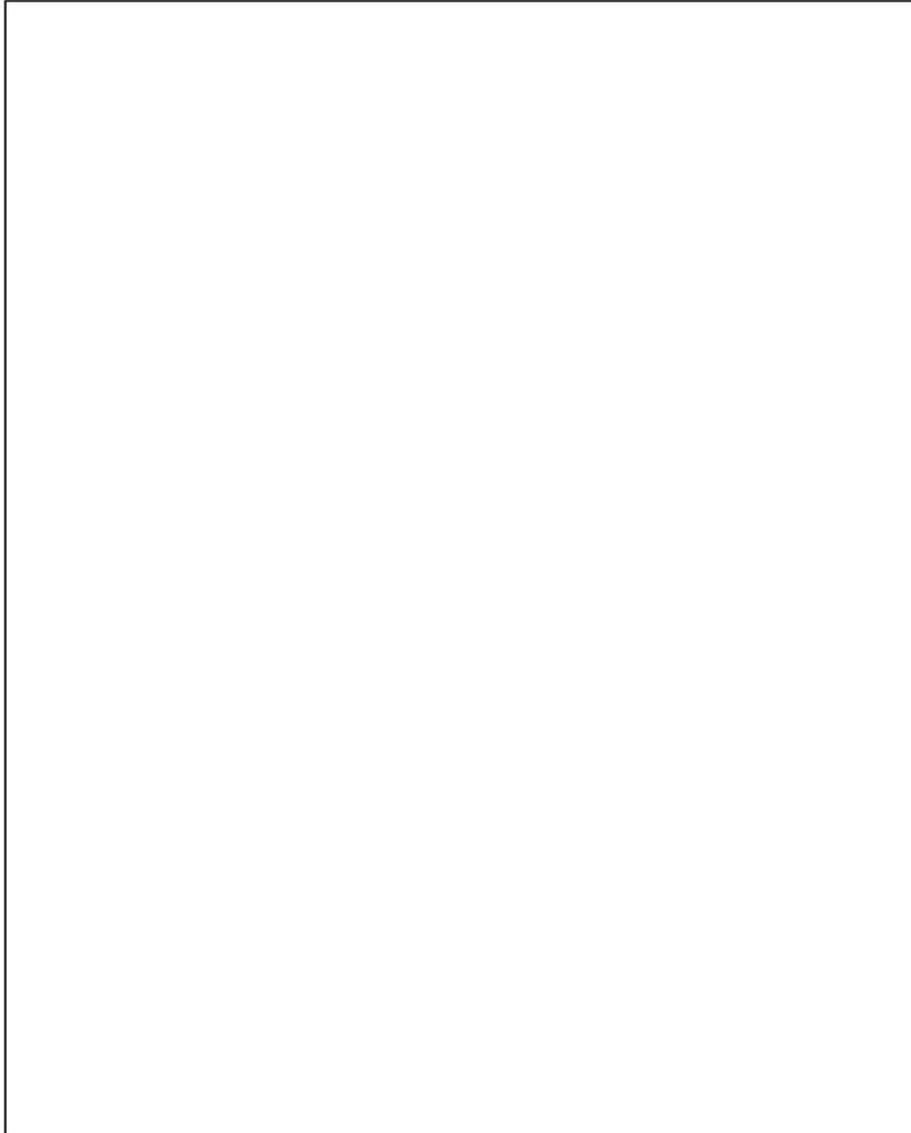
(該当するものに○をつけて下さい。)

9. 広島の水辺の風景の中で、もっとも好きな場所はどこですか？  
(各水辺の名前をご存じない場合は2ページの図をご参照ください。)

- ① 平和公園界限
- ② 寺町周辺
- ③ 白島界限の自然の川
- ④ 瀬戸内海に注ぐ河口部
- ⑤ 基町ポプラ通り
- ⑥ 京橋川界限
- ⑦ 特にない
- ⑧ その他( \_\_\_\_\_川 \_\_\_\_\_町あたり)

10. 理由

■ 5. この場所（基町環境護岸）に対する感想をご自由にお書きください。



ご協力ありがとうございました。

**市民野外上映会と「基町ホップラ通り」についてのアンケート**

本日の野外上映会「基町ホップラ通り」は、池田市のまちづくりを推進する取り組みの一環として、池田市が主催する「まちづくり」の一環として実施されています。

- 1** 本日の野外上映会の感想をお聞かせください
- 良かった点・良かった理由 (自由にお書きください)
- 良かった点・良かった理由 (自由にお書きください)

- 2** 良かった点・良かった理由、自由にお書きください。
- 良かった点・良かった理由 (自由にお書きください)
- 良かった点・良かった理由 (自由にお書きください)

- 3** この場所で開催されるなら、どんな映画を見たいですか？
- 映画名 (自由にお書きください)
- 映画名 (自由にお書きください)

★以下はこの場所(通称「基町ホップラ通り」)についておたずねします。

- 4** この水辺にどれくらい来ますか？
- 毎日 ○ ほぼ毎日 ○ 時々 ○ ほとんど来ません ○ その他
- 5** どのような日付でこの水辺を利用されますか？(複数回答可)
- 平日 ○ 週末 ○ 休日 ○ その他
- 平日 ○ 週末 ○ 休日 ○ その他

- 6** この水辺に「基町ホップラ通り」という名称があることは存じていましたか？
- はい ○ いいえ

- 7** この水辺が良いと思うことは何ですか？(複数回答可)
- 水辺の環境がよい ○ 水辺の景色がよい ○ 水辺の施設がよい ○ その他
- 水辺の環境がよい ○ 水辺の景色がよい ○ 水辺の施設がよい ○ その他

- ★以下は、水辺の水辺についておたずねします。
- 8** 広場で「水の都」と感じ、好きな風景(こと)は何ですか？(複数回答可)
- 水辺の環境がよい ○ 水辺の景色がよい ○ 水辺の施設がよい ○ その他
- 水辺の環境がよい ○ 水辺の景色がよい ○ 水辺の施設がよい ○ その他

- 9** 広場の水辺の楽しさで重要だと思うことは何ですか？(複数回答可)
- 水辺の環境がよい ○ 水辺の景色がよい ○ 水辺の施設がよい ○ その他
- 水辺の環境がよい ○ 水辺の景色がよい ○ 水辺の施設がよい ○ その他

性別	男	女					
年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
お住まいの地域	区 市 町 村						

ご記入ありがとうございます。

## II-2 事後評価結果

### II-2-1 各手法における調査結果概要

ここでは、各調査手法別に、その実施の概要と結果をとりまとめたものの一部を示す。

#### (1) ヒアリング調査

本事例では、下表のとおり、管理者である国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所と周辺の河川緑地を管理し、河川空間の利活用を担う広島市、および当該施設で活動する地元団体にヒアリング調査を実施した。調査にあたっては、各団体1時間程度を費やし、発現している効果の内容とその経緯について伺った。特に現在、管理を行っているポップラ・ペアレンツ・クラブには、活動の内容や管理を行うに至った経緯、現在の利用状況などを詳しく伺った。

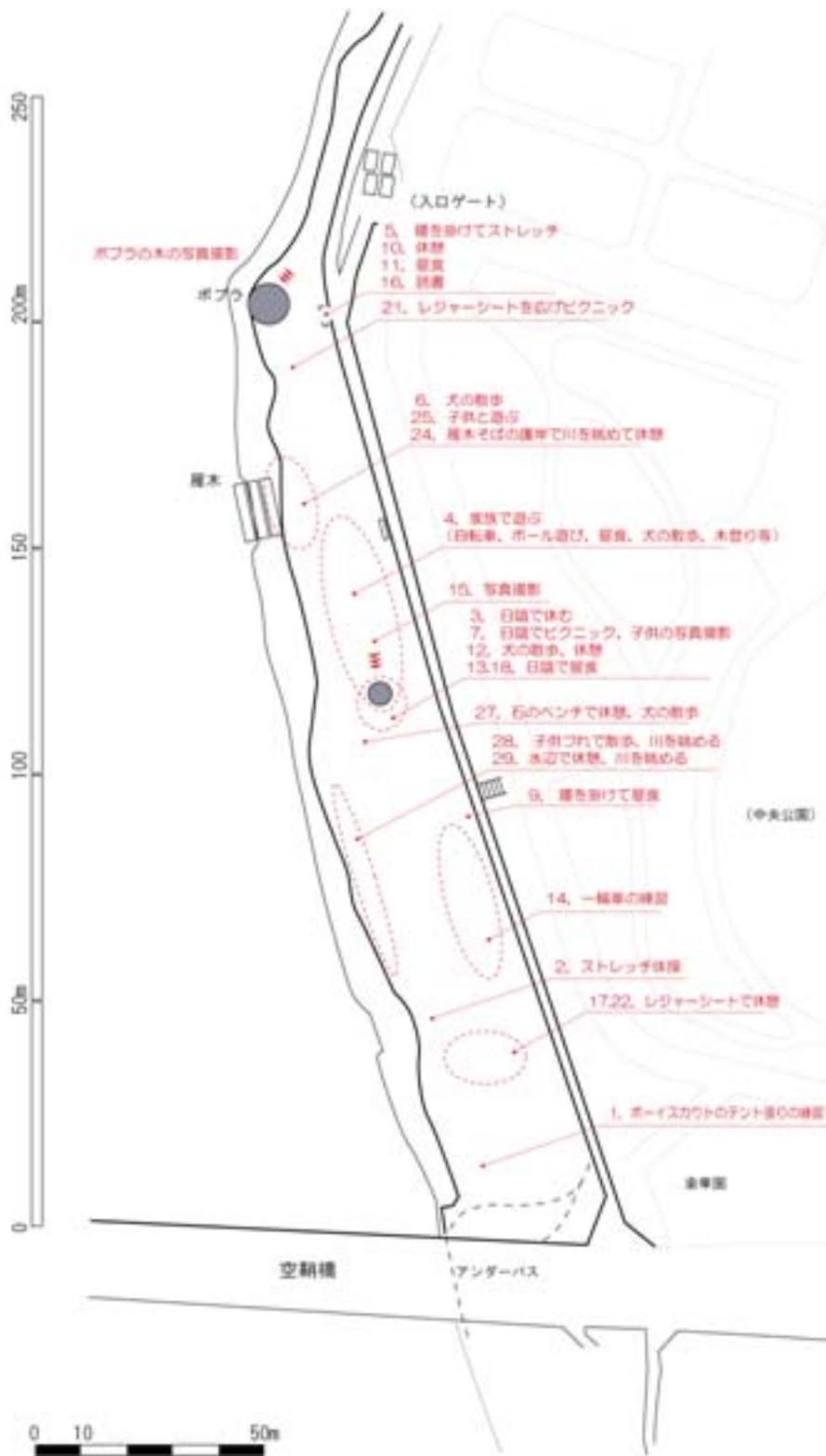
対象		把握できた主な効果
行政	国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動団体の活動の発展</li> <li>・イベントの開催</li> <li>・周辺施設整備との連携</li> </ul>
	広島市活性化局観光交流部交流課 広島市都市整備局都市計画課都市デザイン係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動団体の活動の発展</li> <li>・利用の多様化</li> <li>・公共空間整備の拡張</li> <li>・景観条例、景観計画等の策定</li> </ul>
利用者	NPO法人雁木組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観やまちづくりに関する意識の高まり</li> <li>・地域のシンボルとしての認知</li> <li>・親しみ・愛着、誇りの向上</li> <li>・維持管理活動の実施</li> <li>・利用の多様化</li> </ul>
	ポップラ・ペアレンツ・クラブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観やまちづくりに関する意識の高まり</li> <li>・地域活動団体の活動の発展</li> <li>・地域のシンボルとしての認知</li> <li>・親しみ・愛着、誇りの向上</li> <li>・維持管理活動の実施</li> <li>・利用の多様化</li> </ul>
	カフェテラス倶楽部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観やまちづくりに関する意識の高まり</li> <li>・親しみ・愛着、誇りの向上</li> <li>・イベントの開催</li> <li>・地域活動団体の活動の発展</li> <li>・維持管理活動の実施</li> </ul>
	青空美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの開催</li> <li>・親しみ・愛着、誇りの向上</li> </ul>

## (2) 現地観測調査

平日と休日に調査を実施した結果、日常的な利用として遊歩道ではジョギング、ウォーキング、散歩、自転車及び歩行者の通過利用が見られ、緑地ではピクニックや休憩などのレジャー利用が多数見られた。また、雁木部分で水に触れ合ったり、行き交う畝を眺めるなど、水辺空間として特徴的な利用も見られた。

さらに、ヒアリング調査の結果、イベントが多数開催されていることを把握していたため、映画上映会のイベント時に休日調査を実施した。イベントは、コンサートや映画上映など多くの人が集うのに十分な広さのある芝生広場を中心に開催されている。参考に、他のイベントの利用についても場所を確認したところ、象徴的なポプラ等の樹木の周辺の空間が多く利用されていることが把握できた。

<日常生活での利用（滞留利用）>



25. 羅本付近で子供と遊ぶ



28. 水辺で休憩、川を眺める



7. 日陰でピクニック、子供の写真撮影



17. レジャーシートを広げて休憩



6. 犬の散歩



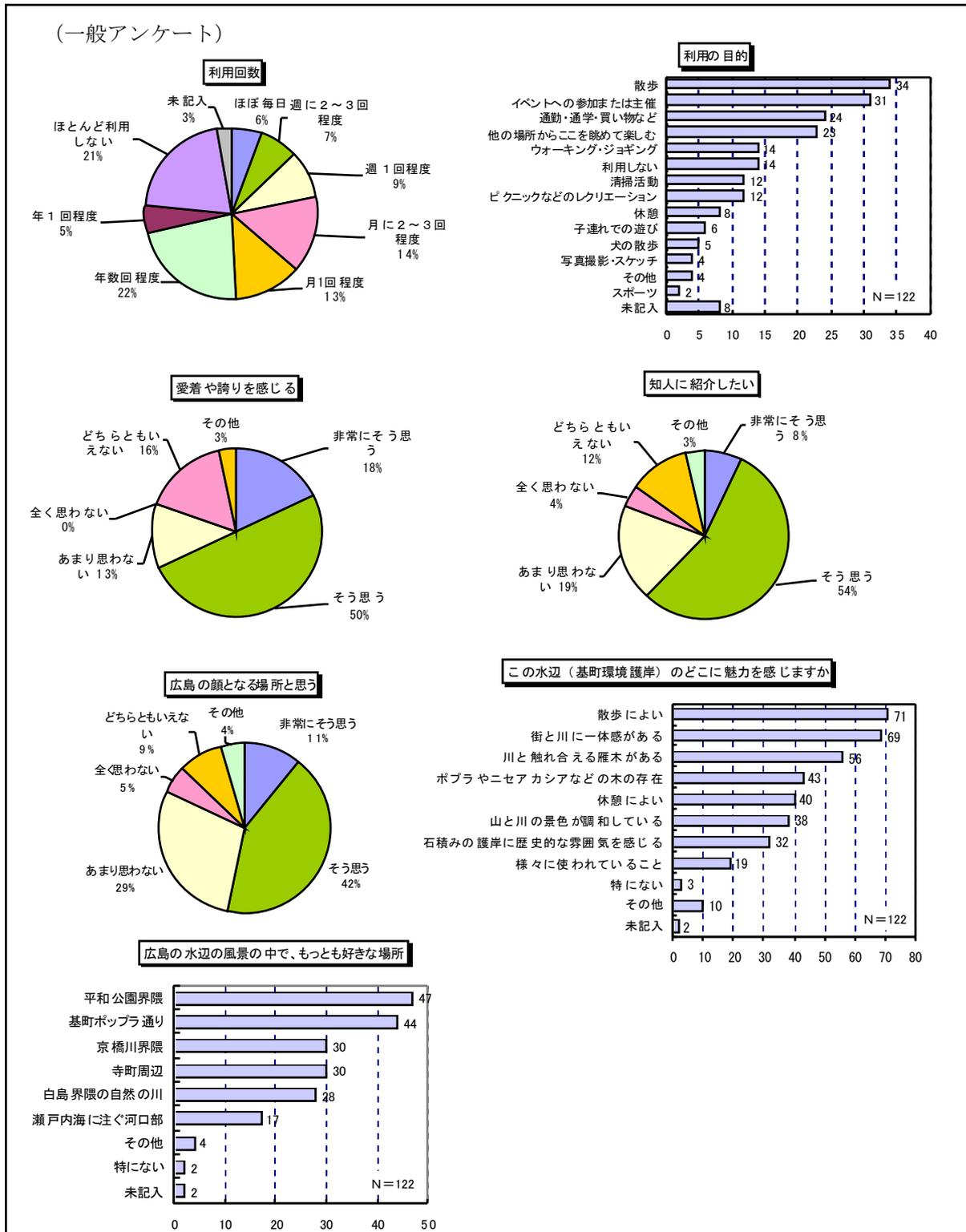
1. ボーイスカウトのテント張りの練習

<イベント時の利用>



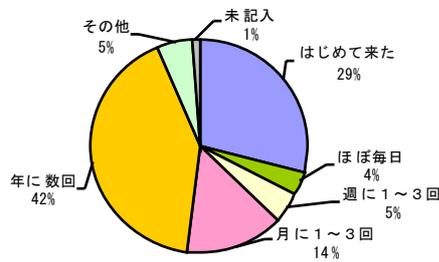
### (3) アンケート調査

回収数は、一般アンケートが 122 件、映画上映会アンケートが 83 件であった。回答者の属性は、両対象とも、男女比がほぼ同数で、年齢は 40 代が最も多いものの、20 代から 50 代までバランスよく分布した。以下に、単純集計結果の一部を紹介する。

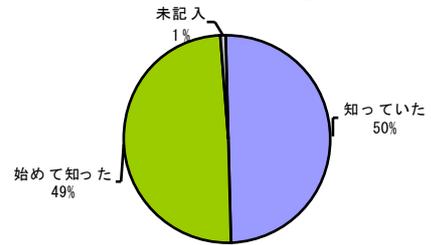


(映画上映会アンケート)

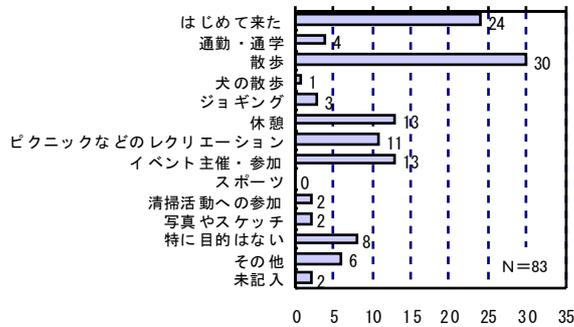
水辺へ行く頻度



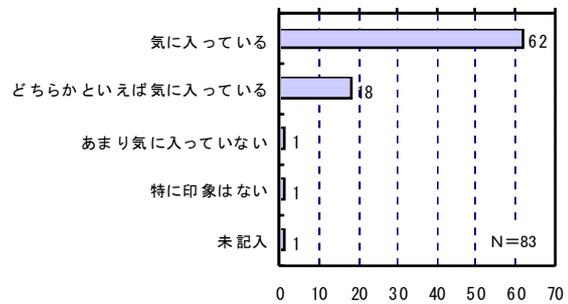
ポップラ通りの認知度



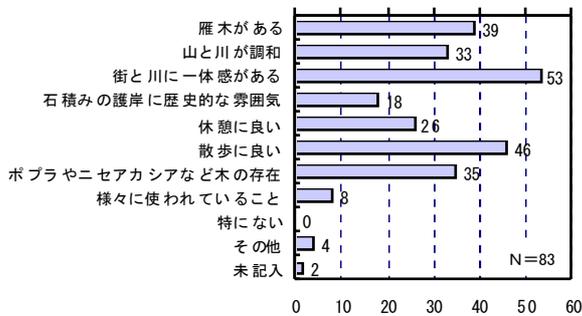
水辺に来る目的



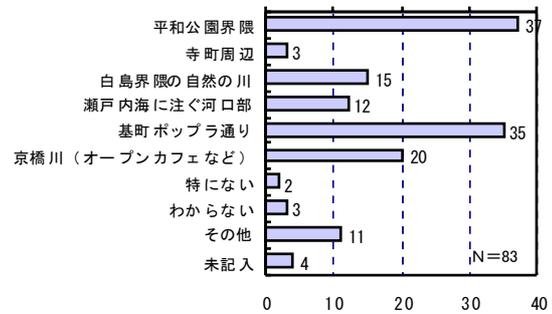
水辺の印象



POP'La通りの好きなおとこ



市内で好きな水辺



## II-2-2 確認された景観向上効果

本事例は、整備後 25 年が経過していること、整備前と空間の機能が全く異なることから、整備前後の比較は困難であることが前提となる。そのため、調査結果の評価の際に注意する点として、前後を比較するような効果の発現については、基本的に利用等の状況が確認された場合、効果が発現したとみなすこととした。

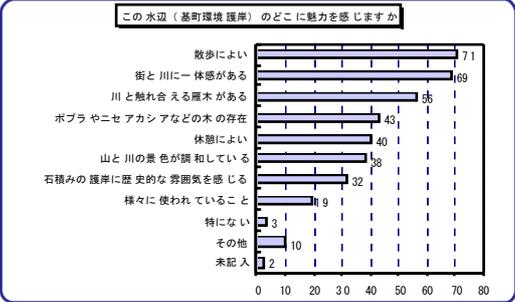
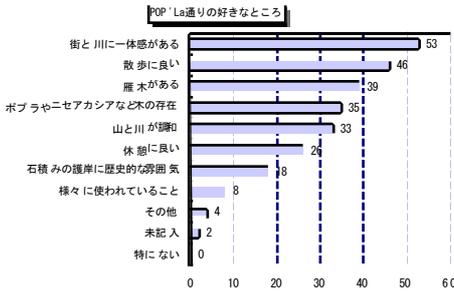
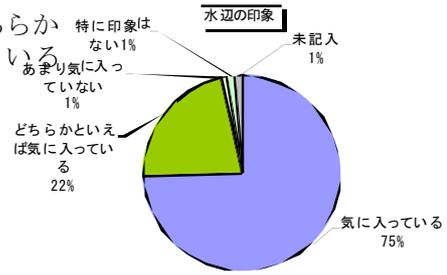
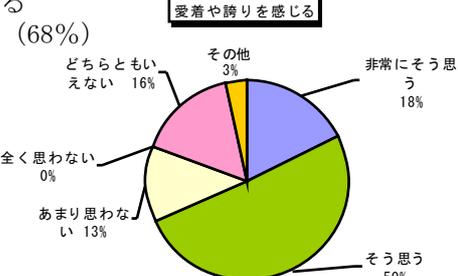
調査の結果、主な調査対象とした「地域のシンボルとしての認知」、「親しみ・愛着、誇りの向上」、「利用の増加・多様化」をはじめ、多くの景観向上効果が確認された。

中でも、本事例で顕著にみられた効果として、「地域のシンボルとしての認知」、管理協定の締結やイベント利用の増加など「団体活動、維持管理活動に与える効果」が挙げられる。整備の際に既存のポプラの木を残し象徴的な空間を作ったことで、シンボル空間として認知され、市民に親しまれ、整備後 20 年が経過したのちに愛称が命名され、市民団体による管理運営の実現に発展したことは、本事例の整備による最大の効果と言えよう。

このような効果を受け、当初想定していなかった ①メディアへの露出増加、②外部機関による表彰などの外部評価の高まり が新たに確認できた。

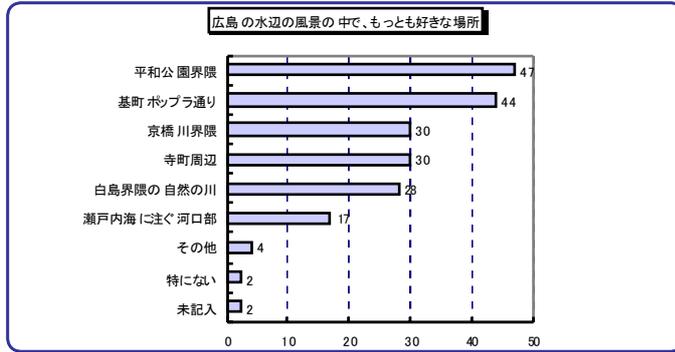
以上の結果より、文献調査より読み取った本事業の景観形成の目標のうち、「1. 水辺と市民の関係の復活」「2. 山紫水明となる周辺の自然との調和（歴史的な景観の継承）」「3. 伝統的な工法の再評価」は、概ね達成できたと考えられる。「4. 背後施設との一体的な空間の形成」については、現在検討中である背後の中央公園との間にある道路の移設計画が実現することにより達成されるため、今後の計画の進展が期待される。

①確認された景観向上効果

景観整備による効果	調査結果	調査手法
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">整備された空間に対する認知・印象</p>	<p>◇基町護岸について魅力を感じる内容</p> <p><b>【住民】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「散歩によい」(58%)</li> <li>・「街と川に一体感がある」(57%)</li> <li>・「川と触れ合える雁木がある」(46%)</li> <li>・「ポプラ等の樹木がある」(35%)</li> </ul>  <p><b>【来訪者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「街と川に一体感がある」(64%)</li> <li>・「散歩によい」(55%)</li> <li>・「雁木がある」(47%)</li> <li>・「ポプラ等の樹木がある」(42%)</li> </ul> 	<p>住民アンケート (N=122)</p> <p>来訪者アンケート (N=83)</p>
	<p>◇水辺の印象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気に入っている、どちらかといえば気に入っている (93%)</li> </ul> 	<p>来訪者アンケート (N=83)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">意識に与える効果</p>	<p>◇親しみ、愛着、誇りの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親しみ、愛着を感じる：大変感じる、感じる (68%)</li> </ul> 	<p>住民アンケート (N=122)</p>

②地域のシンボル・ランドマークとしての認知、地域らしさの認知

◇広島の水辺で最も好きな場所→第2位の評価

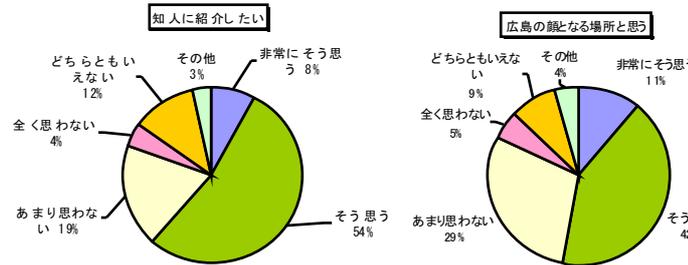


- ・「平和公園界限」(39%)
- ・「基町ポップラ通り」(36%)
- ・「寺町周辺」「京橋川界限」(25%)

【自由回答：理由】

- ・住まい（職場）が近く愛着があるため
- ・川と山など周囲の景色と調和しており落ち着くため、車道が離れており、都心にもかかわらず落ち着くため
- ・水辺が広く開放感があるため

- ・知人が広島に来たら紹介したい：大変感じる、感じる(60%)
- ・広島顔となる場所：大変感じる、感じる(51%)



住民アンケート (N=122)

③景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり

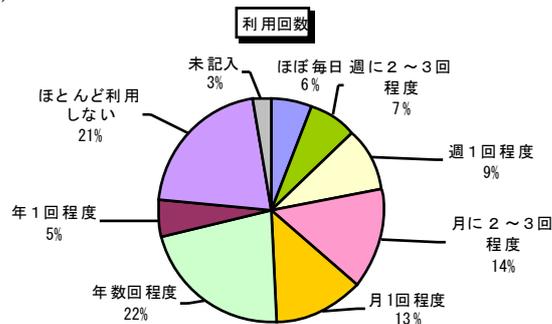
- ◇景観やまちづくりに対する意識の高まり
- ・「基町ポップラ通り」の愛称の命名
  - ・設計者を呼んでのシンポジウムを開催

ヒアリング\*

①利用の増加

◇利用頻度

- ・利用頻度は、月に1回以上が48%と約半数を占める。
- ・「週に1回以上」(22%)、「月に1回以上、週1回以下」(26%)、「年に1回から数回程度」(26%)、「ほとんど利用しない」(20%)



住民アンケート (N=122)  
ヒアリング\*  
現地観測

住民の日常生活での利用に与える効果  
活動に与える効果

②利用の多様化

【ヒアリング】

・中央公民館で行う健康ウォークのプログラムの6コース中、2コースとして利用。毎週木曜日（参加者15名）、第1、3木曜日（参加者8名）開催。

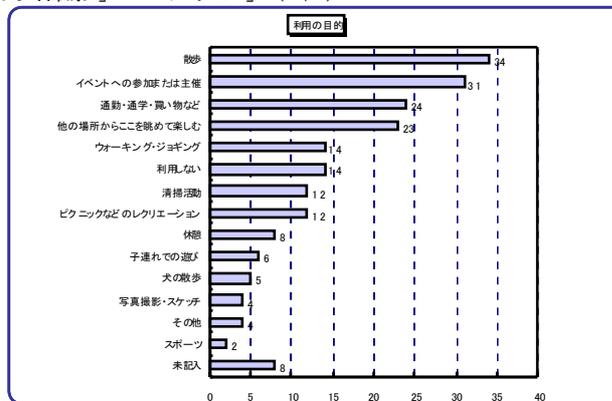
【現地観測】

・近所の子供達の遊び場としての利用  
 ・ベンチや芝生広場を利用した休憩、運動等の利用

◇利用目的

【アンケート】

・「散歩」（28%）・「イベントへの参加または開催」（25%）  
 ・「通勤・通学」（20%）・「他の場所から眺める」（19%）  
 ・「ウォーキング、ジョギング」（11%）  
 ・「清掃活動」「ピクニック等のレクリエーション」（10%）  
 ・「休憩」（7%）・「犬の散歩」「子連れでの遊び」（5%）  
 ・「写真撮影」「スケッチ」（3%）



住民アンケート  
(N=122)



護岸で休む親子



ジョギングの様子



腰をおろして船を眺める様子

③コミュニティの形成

・犬の散歩仲間や、清掃活動参加者の交歓の場としての利用



犬の散歩仲間の交歓の場としての利用の様子

定点観測  
ヒアリング  
(来訪者)

①イベントの開催

・花見、自然観察、船着場として雁木を利用した雁木タクシーでの夕涼みクルーズの実施、しじみの観察等



花見の時期の様子



雁木タクシーの利用

稚貝放流のイベント



小学生を対象とした環境学習の様子

ビアリング  
(PPC、カ  
フェテ  
ス倶楽  
部  
等)

・夕凧コンサート、映画上映会、オープンカフェ、ジャズライブ、Tシャツアートなどのイベントの開催  
・「水の都デルタライブ」の実施  
→国・県・市が策定した「水の都ひろしま構想」の実行イベント



Tシャツアートのイベントの様子



映画上映会のイベントの様子

水の都デルタライブの様子

	<p>②維持管理活動の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回のPPCによる定例の草刈り、清掃活動</li> <li>・ベビーポップラを育て、里親を募集し譲り渡す</li> </ul>  <p>ポップラとベビーポップラ      定例の草刈りの様子</p>	<p>ヒアリング (PPC)</p>
	<p>③地域団体の活動の発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛称「基町ポップラ通り」の命名</li> <li>・PPC（ポップラ・ベレンツクラブ）の発足</li> <li>・太田川河川事務所とPPCの管理協定の締結</li> <li>・維持管理等への参加団体の増加、他団体との連携</li> </ul>  <p>施設内のベンチに貼られたPPCとの協定内容について記したパネル</p>	<p>ヒアリング (PPC、NPO 法人雁木組等)</p>
<p>景観整備による波及効果</p>		<p>調査結果</p>	<p>調査手法</p>
<p>隣接する空間整備に与える効果</p>	<p>③公共空間整備の拡張</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川沿いの移動のアンダーパスの設置</li> <li>・背後の中央公園との間にある道路の移設計画</li> </ul>  <p>背後の中央公園との間にある道路</p>	<p>ヒアリング (広島市)</p>
<p>周辺の空間整備に与える効果</p>	<p>①周辺施設整備との連携</p>	<p>◇デザインを踏襲した整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沿川の河岸親水テラス（1号、2号、3号）の整備、元安橋橋詰親水テラス、元安川河岸テラスの整備</li> <li>・太田川下流部高潮防波堤の整備</li> </ul>  <p>元安橋橋詰親水テラス      太田川下流部高潮防波堤</p>	<p>ヒアリング (広島市、 太田川河川事務所)</p>
<p>景観形成に寄与する制度等の構築</p>	<p>①景観条例、景観計画等の策定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の都整備構想に基づく周辺空間を含めた整備</li> </ul>  <p>水の都整備構想図</p>	<p>文献調査 ヒアリング (広島市)</p>

	<p>① 外部機関（専門家）からの表彰等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土木学会デザイン賞特別賞受賞</li> <li>・基町護岸設計者等関係者をパネーにした「太田川水辺のデザイン展」における「水辺のデザイン展」、「水辺デザインウォーク」開催（PPC主催、太田川河川事務所の協力）</li> </ul>  <p>水辺デザインウォークのパンフレット</p>	<p>文献調査 ヒアリング (PPC)</p>
<p>外部評価の高まり</p>	<p>② マスコミ・メディア掲載の増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画「夕風の街、桜の国」の撮影</li> <li>・CM撮影</li> <li>・結婚式等の写真撮影</li> </ul>  <p>映画の撮影の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑誌「ゼグシー」で結婚式の記念撮影の場として紹介。このほか、ポスター撮影や映画のロケ、風景画の対象になるなど、美しい水辺の風景として定着している。</li> </ul>   <p>結婚情報誌「ゼグシー」の撮影の様子</p> <p>カップルが願掛けを書き残した玉石</p>	<p>文献調査 ヒアリング (PPC、太田川河川事務所)</p>

### Ⅱ－３ 考察および取りまとめ

以上により整理された、景観整備の内容と景観整備による効果、およびその波及フローは、下記のように示すことができる。

効果の波及フロー図の各効果項目同士をつなぐ矢印は、主にヒアリング調査結果に基づいており、その因果関係が関係者により語られたものである。しかし、これ以外にもさまざまな考え方の可能性があるため、あくまでも効果の発現を体系的に示した一例として整理したものである。

また、プロット図は、これらの効果が対象範囲内のどこで起こっているかを整理したものである。



③プロット図

ポプラとベビーポプラ

雁木を利用した船着き場

雁木に座って水に近づく利用

護岸から船を眺める利用

花見

野外映画上映会のイベント

ジャズライブのイベント

自然観察のイベント

PPCの管理協定のプレート

月に1回の草刈りなど維持管理

ジョギングや散歩などの利用

背後の中央公園との間に通る道路の移設計画

メディアへの掲載の増加

Tシャツアートのイベント

### Ⅲ 児ノ口公園（愛知県豊田市、公園）

#### Ⅲ-1 事業条件の整理

【事業名】	児ノ口公園	【事業分野】	公園
【事業対象・規模】	対象：児ノ口公園（愛知県豊田市） 規模：2 ha		
【事業主体】	豊田市	【周辺関連事業】	なし
【景観検討の段階】	構想・計画・設計・施工・維持管理		
【事業期間・施工】	竣工：1996年		
【事業概要】	<p>豊田市はトヨタ自動車の工場の完成とともに、自動車産業を中心とした製造業が発達しており、市内には、トヨタ自動車の関連企業が数多く立地している。また全国市町村で、製造品出荷額が一位となっている。</p> <p>市政としては「生涯を安心して生き生きと暮らせる市民」「共働による個性豊かな地域」「水と緑につつまれたものづくり・環境先進都市」をめざすべき姿とする第7次総合計画が2008年度に策定された。</p> <p>児ノ口公園は、名鉄三河線豊田駅から500m程度、徒歩10分程度と近接しており、周辺には住宅地が広がっている。西側には国道153号が近接して走っており、さらに西には矢作川が流れている。</p> <p>昭和30年頃、五六川の暗渠化とともに近代都市公園として整備された児ノ口公園は、矢作川浄化用水導入事業が決定した。この頃の五六川は地下水路として家庭排水等を処理する機能しか持たなかったが、これを都心地区に生物生息空間を創造するものとして五六川の再生をめざし、児ノ口公園再活性化事業が開始された。</p> <p>整備により暗渠化されていた五六川は多自然工法により再生し、公園内を蛇行して流れている。護岸は空石積みで整備されており、止水域の形成等と併せて多様な生物が生息できる空間を形成している。国道側には里山を造成し、市民の手により約8000本の植樹がなされ、幹線道路と公園の緩衝帯としての役割を果たしている。また、本来湿地帯として整備される予定だったエリアは、現在では共有のたんぼとして地域に利用されている。公園内の園路はほとんど舗装されておらず、利用者が通りやすい場所が園路として形成されている。さらに、管理施設として「ちごの庵」が公園の北側に位置し、維持管理、催し等地域活動における拠点として利用されている。</p>		

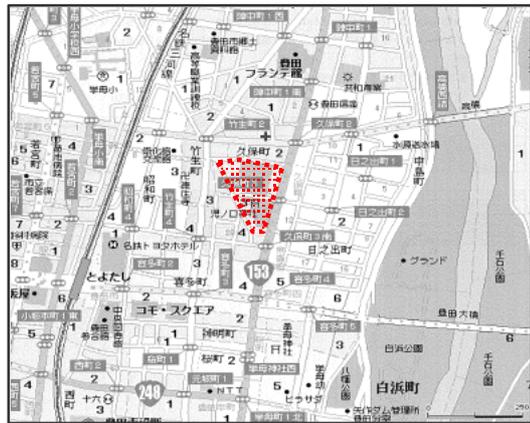


図 事例対象位置図

【整備前後の写真】

整備前



整備後



III-2 調査対象とする景観向上効果の選定

計画・設計の意図	景観に配慮した内容	想定された効果
<b>A. 多自然工法による自然空間の創出・原風景の再生</b>		
1 都心部における自然空間の創出	○周囲の自然空間（矢作川・矢作川緑地、昆森公園等）が生態系として機能するためのネットワークを形成する空間として整備を実施 ○都心部に豊富な緑地を提供することにより、快適な居住空間を創出	●整備した施設・空間に対する認知・印象の変化 ●親しみ・愛着、誇りの向上 ●利用者の増加 ●利用形態・頻度等の変化
2 原風景の再生	○雑木林、小川、湿地等、昔の風景を再生	
3 五六川の再生	○暗渠化していた都市下水路を、多自然工法により公園内を流れる小川として再生 ○水路を蛇行させ瀬や淵をつくることにより、多様な流れの表情を創出 ○空石積みの護岸や止水域をつくることにより、多様な生物が息できるビオトープを形成	
4 里山（雑木林）の造成	○約8000本の苗木を植樹 ○隣接する幹線道路と自然空間との緩衝領域として機能	
5 遊具の撤去	○自然型の公園を目指したため、遊具を設置しなかった。	
<b>B. 住民との連携による維持管理体制の確立</b>		
1 児ノロ公園管理協会の設立（管理の委譲）	○日常的な管理が必要な多自然型の公園について、その管理を住民に委譲。 ○設立された住民団体を管理協会として正式に委託し、管理費を支払う仕組みを形成	●親しみ・愛着、誇りの向上 ●地域活動団体の活動の発展

III-3 調査手法と対象、及び調査範囲

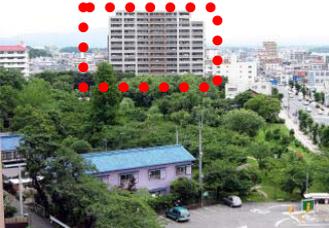
調査手法	対象	調査範囲等	
アンケート調査	整備対象位置周辺の地元住民	 <p>アンケート配布箇所</p> <p>現地観測の観測ポイント</p> <p>現地観測位置</p>	
ヒアリング調査	事業主体（行政）関係者		①豊田市建設部公園課 早川氏、倉地氏（当時担当者）稲吉氏、小澤氏（現在担当者）
	利用団体		①児ノロ公園愛護会 成瀬氏、永井氏 ②なんでもギバー隊 公園整備活動参加者
現地観測調査	平日・休日		

Ⅲ-4 事後評価結果

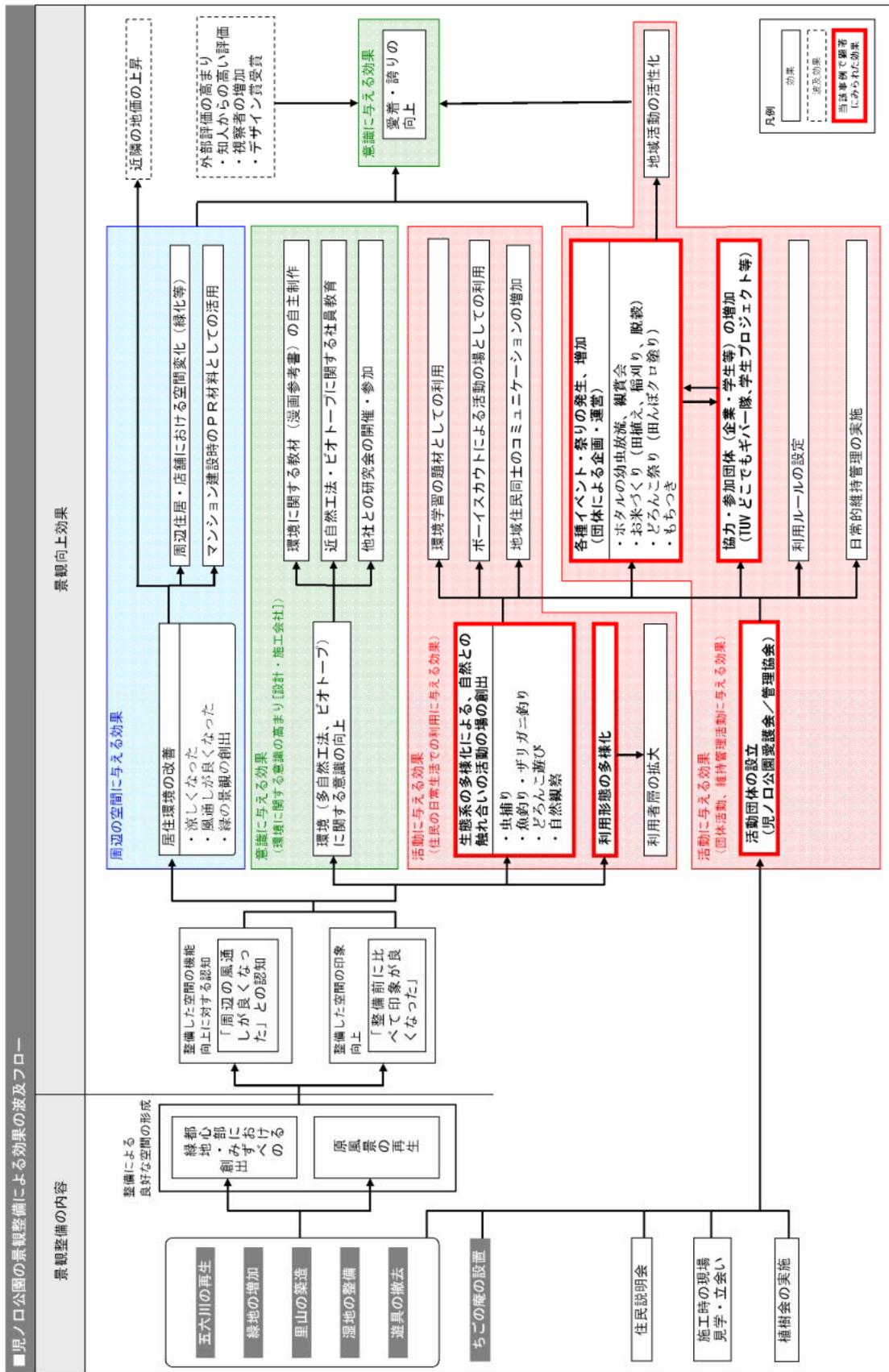
①確認された景観向上効果

景観整備による効果	調査結果	調査手法
<p>整備された空間に対する認知・印象</p>	<p>① 整備した空間の機能向上に対する認知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「周辺住居の風通しが良くなり、公園内も涼しくなった」(ただし、「整備前と比較して虫が多い」「落ち葉の処理が必要」等の不満・要望も生じている)</li> </ul>	アンケート
	<p>② 整備した空間の印象の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の児ノロ公園に対する評価「大変良い」「良い」(81%)</li> <li>・「自然豊かな公園風景が良い」(89%)</li> <li>・「五六川が再生されたことを良いと思う」(86%)</li> <li>・「公園の中に居て、心地良いと思う」(82%)</li> <li>・「公園で開催されるイベントやお祭りを良いと思う」(81%)</li> <li>・「整備時に撤去した遊具(ブランコ、滑り台等)は無くても良い」(50%)</li> <li>・現在の児ノロ公園を整備前と比べて「大変良くなった」「良くなった」(64%)</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p><b>現在の公園の評価</b></p> <p><b>整備前と比べた現在の公園の評価</b></p> </div>	アンケート (N=271)
<p>意識に与える効果</p>	<p>① 親しみ・愛着、誇りの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(今現在の)児ノロ公園に親しみ・愛着を感じる」(82%)</li> <li>・「整備前と比べて、今現在の児ノロ公園の方が愛着や親しみを感じる」(57%)</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><b>公園に対する親しみ・愛着について</b></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><b>整備前後での親しみ・愛着について</b></p> </div> </div>	アンケート (N=271)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「(今現在の)児ノロ公園を誇りに思う」(70%)</li> <li>・「整備前と比べて、今現在の児ノロ公園の方が誇りに感じる」(63%)</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><b>公園に対する誇りについて</b></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><b>整備前後での誇りについて</b></p> </div> </div>	アンケート (N=271)

		<p>③景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり【設計・施工会社】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施工会社における意識変化が見られ、環境や近自然工法の重要性を認識</li> <li>・多自然工法やビオトープといった技術を会社の看板として捉えている</li> <li>・コミュニティ・次世代の子供たちのため、という意識も高まり、自費でビオトープや自然を学ぶ助けとなる参考書（漫画）を出版</li> <li>・環境に関する意識を他社と共有することも必要という意識の芽生えから、中部森林開発研究会、バイオフィット研究会等への参加</li> </ul>	ヒアリング（設計・施工会社）																					
活動に与える効果	住民の日常生活での利用に与える効果	<p>①利用の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用形態【通勤・通学、スポーツや遊び・ベンチ等での休憩】については、利用頻度が減少したが、その他の利用形態については利用頻度が増加している（通勤・通学の利用頻度の減少については、公園敷地内の通路が舗装されておらず、通過のみの利用はされにくいことが考えられる。また、スポーツ利用の頻度の減少については、広場面積の減少が影響していることが考えられる）</li> </ul> <table border="1" data-bbox="555 757 1153 958"> <thead> <tr> <th>利用形態</th> <th>増加</th> <th>減少</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通勤・通学</td> <td>13%</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>散歩・ジョギング</td> <td>43%</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>スポーツや遊び、ベンチ等での休憩</td> <td>20%</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td>自然観察や写真撮影</td> <td>30%</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>祭りやイベントへの参加・鑑賞</td> <td>38%</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>清掃活動への参加</td> <td>20%</td> <td>12%</td> </tr> </tbody> </table>	利用形態	増加	減少	通勤・通学	13%	17%	散歩・ジョギング	43%	16%	スポーツや遊び、ベンチ等での休憩	20%	31%	自然観察や写真撮影	30%	11%	祭りやイベントへの参加・鑑賞	38%	12%	清掃活動への参加	20%	12%	アンケート（N=123）
	利用形態	増加	減少																					
通勤・通学	13%	17%																						
散歩・ジョギング	43%	16%																						
スポーツや遊び、ベンチ等での休憩	20%	31%																						
自然観察や写真撮影	30%	11%																						
祭りやイベントへの参加・鑑賞	38%	12%																						
清掃活動への参加	20%	12%																						
	<p>②利用の多様化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前のグラウンド、プールの利用と比べ、虫とり、ザリガニ釣り、散歩、休憩、イベント利用、自然観察等、多様な利用形態が生じている（ただし、野球等、十分な広さがある広場が必要な利用形態は無くなっている）</li> <li>・ボーイスカウトの学びの場として活用</li> <li>・環境学習の題材として利用</li> <li>・利用形態が多様化したことにより、小さい子どもから年配の方まで使える場所となった</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>ザリガニ釣りをする親子      虫捕りに興じる子供たち</p>	アンケート（N=123）、現地観測、ヒアリング（豊田市、活動団体）																						
団体活動・維持管理活動に与える効果	①イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体等が企画・運営を行う祭り・イベントが数多く開催されるようになった</li> </ul>	ヒアリング（活動団体）																					
	②維持管理活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児ノロ公園愛護会が「ゴミは各自持ち帰り」、「①自己責任、②危機管理、③自然共生」という公園利用のルールを設定</li> <li>・周辺住民、活動団体による維持管理の実施</li> <li>・児ノロ公園愛護会が日常的な維持管理を、豊田市が照明や橋梁、東屋等の個別施設の改修等の維持管理を行っている</li> <li>・住民（地域団体）と行政が協力した維持管理体制が成立</li> </ul>	ヒアリング（活動団体）																					
	③地域団体の活動の発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備を契機として地域の活動団体（児ノロ公園愛護会）が発足</li> <li>・活動に参加・協力する団体（TUV どこでもギバー隊、学生プロジェクト、交流館、自治会等）の増加</li> </ul>  <p>児ノロ愛護会・なんでもギバー隊の集会</p>	ヒアリング（活動団体、行政）アンケート																					

景観整備による波及効果		調査結果	調査手法
周辺の空間に与える効果	隣接する空間整備に与える効果	①建物の形態、ファサード、意匠等の変化 ・ 自宅や店舗の改装 (5/123 名)	アンケート
		②建築外構の変化 ・ 自宅等周辺への花・植物の設置等 (15/123 名)	アンケート
外部評価の高まり	①外部機関（専門家）からの表彰等	・ 知人等より住環境に関する高い評価を受けるようになった ・ 視察者の増加 ・ 土木学会デザイン賞受賞（平成 16 年）	アンケート
	②マスコミ・メディア掲載の増加	・ マンション建設時の PR 材料として活用  公園北側に建設されたマンション（株式会社鈴鍵 HP より）	アンケート
	③地価の上昇	・ 周辺地価の上昇	アンケート

②効果の波及フロー図

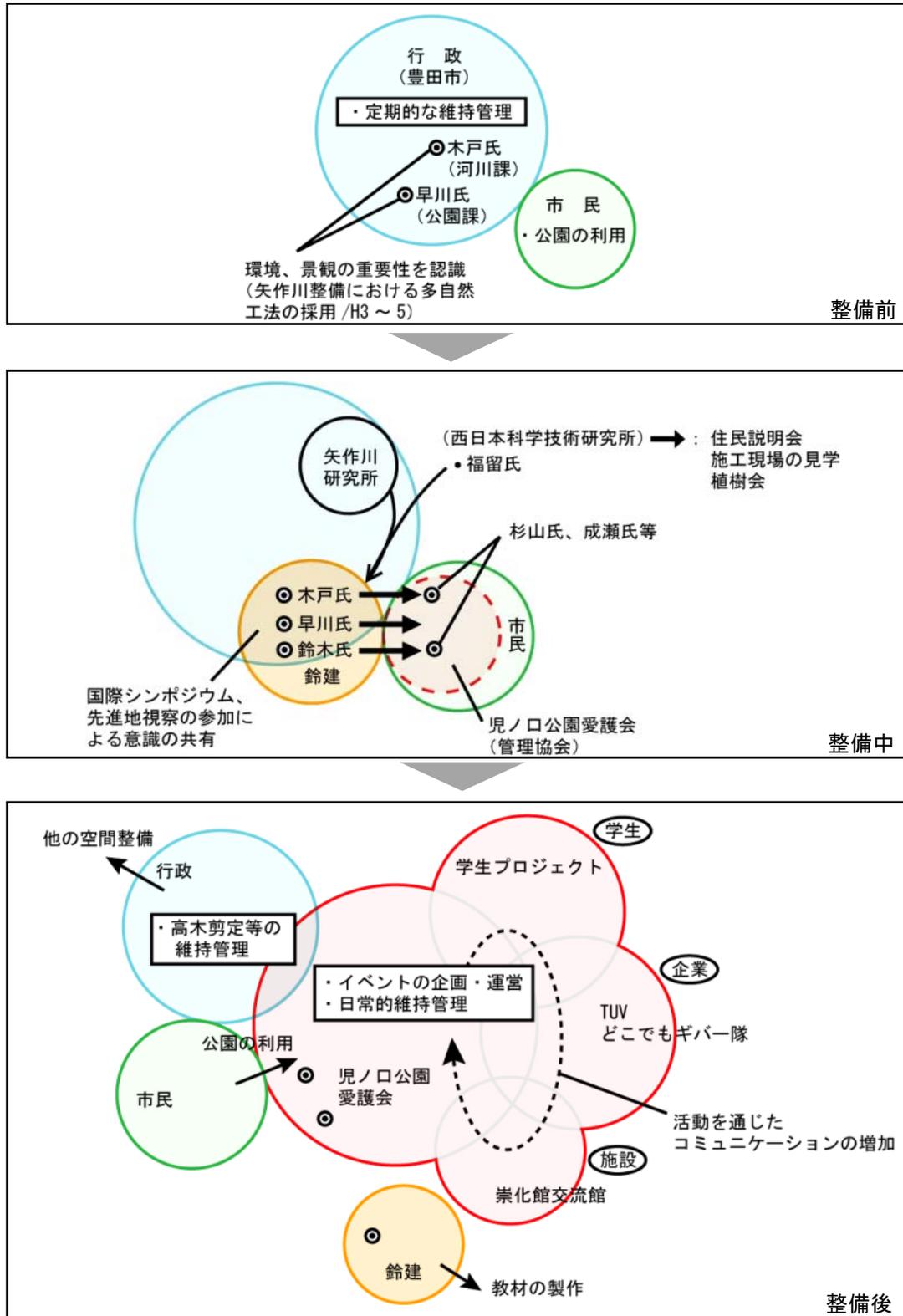


③プロット図



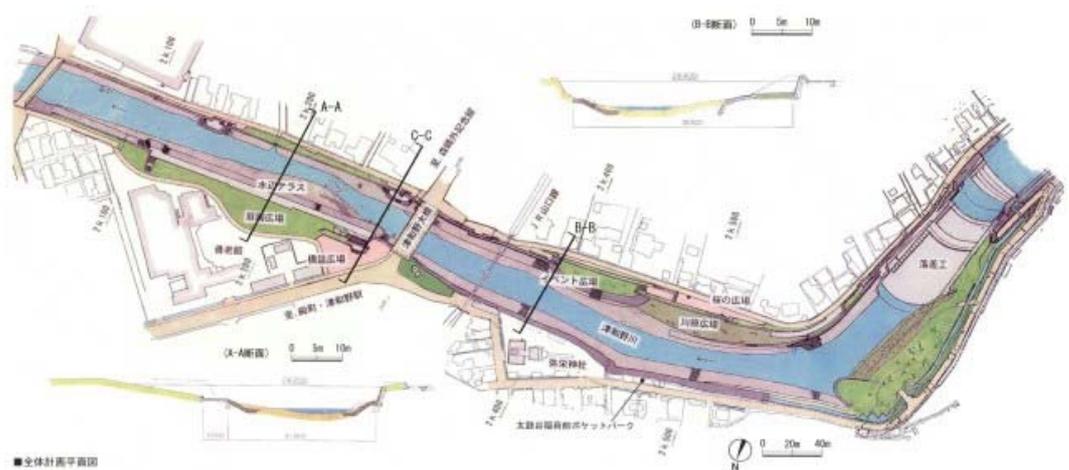
(参考) 模式図「地元活動団体の活動の発展と、行政との関わりの推移イメージ」

本事例において、顕著にみられた効果のひとつに「地域活動団体の活動の発展」があった。この効果のまとめ方の例として、以下のような模式図を示す。



#### IV 津和野川ふるさとの川整備事業（島根県津和野町、河川）

##### IV-1 事業条件の整理

【事業名】	津和野川ふるさとの川整備事業	【事業分野】	河川
【事業対象・規模】	対象：津和野川（御幸橋～丸山橋間）（島根県津和野町） 規模：L=2,940m		
【事業主体】	建設省中国地方整備局 津和野土木事務所	【周辺関連事業】	石畳歩道整備、電線地中化事業
【景観検討の段階】	構想・計画・設計・施工・維持管理		
【事業期間・施工】	平成元年～平成10年		
【事業概要】	<p>津和野町の中心を流れる津和野川は、流下断面の不足から度重なる高洪水被害を町に与えてきた。これに対応するため、島根県では、沿川の街づくりと一体となった河川整備を志向し、1989年度のふるさとの川整備事業認可を受け、その年の秋より具体的水辺空間整備に着手している。</p> <p>津和野川景観整備は、このふるさとの川整備事業の一環として、1991年より実施されている河川景観デザインに関わる一連の検討の成果である。</p> <p>この検討では、当初の設計に基づく試験的施工の結果に対して住民から満足いく評価が得られなかったことを踏まえ、新たに景観デザインの専門家を総括アドバイザーとして迎え、その指導の下に河川景観デザインの専門家による検討を実施している。その中では、事業当初の護岸形状の見直しといったことも前向きに行うとともに、沿川空間との一体かを真剣に考えるなど、今までの河川空間の整備事業とはひと味違う取り組みを行っている。その結果、今までやや希薄であった川と町との関係が新たに生み出され、津和野を訪れる観光客や地元住民に大いに親しまれている。</p>		
			
<p>図 事例対象位置図</p>			



IV-2 調査対象とする景観向上効果

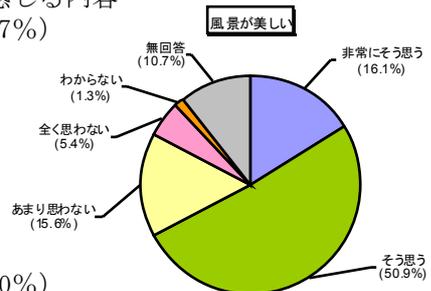
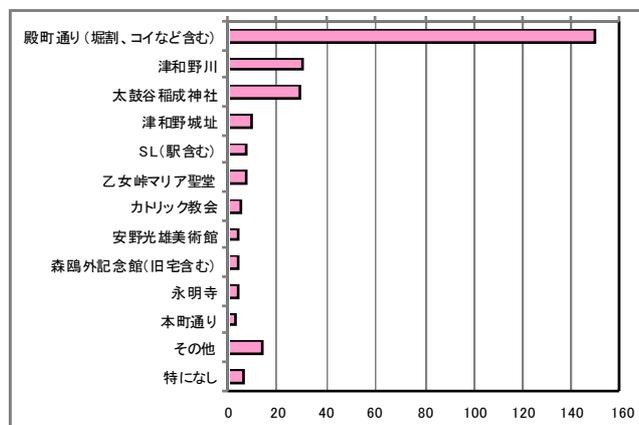
計画・設計の意図	景観に配慮した内容	想定された効果
<b>A. 沿川との融合による「裏」のイメージの除去</b>		
1 外向きの空間としての性格の付与	○既設庭園と水辺の一体空間の創出 ○川か街へ視線を引き込む工夫	●河川への来訪者増 ●観光客の立ち寄りの創出 ●街の顔としての魅力の創出 ●新たな観光周遊ルートの創出 ●周辺施設の景観配慮の促進
2 街並みと融合する端正な佇まいの創出	○視覚的なバランスに優れた構造物デザイン ○風景にマッチする石材や石州瓦といった材料の仕様	
<b>B. 滞留場所やイベント空間の創出</b>		
1 河川内での滞留空間の創出	○周辺空間の連続性を担保する緩傾斜の芝生広場の整備 ○ポケットパークの整備 ○ベンチの設置	●イベント会場としての利用 ●親水機会の増加
2 河川内へのイベント広場の整備	○ステージ的なイベント空間の創出 ○多目的に利用可能な水辺テラスの創出	
<b>C. 地域の日常に馴染む空間整備</b>		
1 内向きの空間の整備	○親しみやすさと素朴さを前面に出したデザイン	●親水機会の増加 ●日常的な散策利用 ●憩い空間としての利用
2 日常的な遊びへの寄与	○親水性の高い堤水護岸や広場の整備 ○自然な河川景を創出するための川の水利特性に期待した河床整備	

IV-3 調査手法と対象および調査範囲

調査手法		対象	調査範囲等
アンケート調査	整備対象位置周辺の地元住民	沿川 500m 以内の配布可能な 500 世帯 ※回収結果： 224/500 通 (回収率 44%)	
	現地来訪者（観光客を含む）	個人旅行の観光客（休日の終日に実施） ※回収結果 73 票	
ヒアリング調査	事業主体（行政）関係者	①島根県津和野土木事務所（現河川担当及び当時の担当） ②津和野町建設課 ③津和野町観光協会 ④津和野町商工会 ⑤津和野町教育委員会	
	対象建築物等所有者	山陰合同銀行津和野支店	
現地観測調査		平日、休日	

IV-4 事後評価結果

①確認された景観向上効果

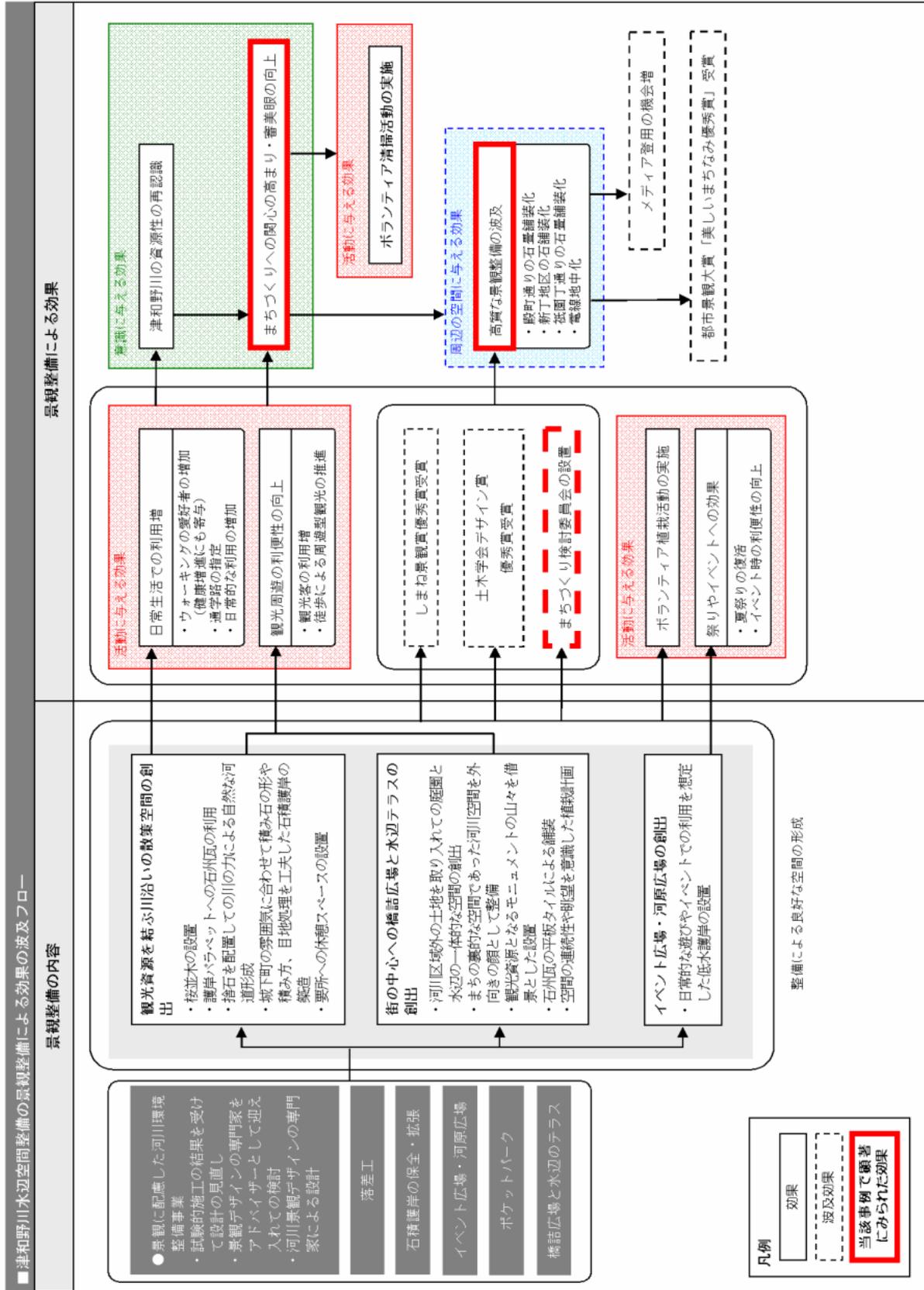
景観整備による効果	調査結果	調査手法
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">整備された空間に対する認知・印象</p>	<p>①整備した空間の機能向上に対する認知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「車の通行が少なく安全である」(57%)</li> <li>・「座って休める所が多い」(48%)</li> <li>・「イベント等で利用している」(自由回答より)</li> </ul>	<p>アンケート (N=224)</p>
	<p>②整備した空間の印象の向上</p> <p>◇津和野川に魅力を感じる内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「風景が美しい」(67%)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史を感じる」(50%)</li> <li>・「自然を感じる」(63%)</li> <li>・「街並みと合っている」(58%)</li> <li>・「津和野らしい風景だと思う」(56%)</li> <li>・「川と親しめる」(40%)</li> </ul> <p>◇津和野らしい風景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客への聞き取り調査では、殿町通りの次に津和野川が挙げられている。</li> </ul> 	<p>アンケート (住民対象 N=224、観光客 N=73)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">意識に与える効果</p>	<p>①親しみ・愛着、誇りの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「親しみ、愛着を感じる」(58%)</li> <li>・知人が津和野に来た時に案内したい(42%)</li> <li>・街の顔だと思う(42%)</li> </ul>	<p>アンケート (N=224)</p>
	<p>②地域のシンボル・ランドマークとしての認知、地域らしさの認知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街の顔だと思う(42%)</li> </ul>	<p>アンケート (N=224)</p>
	<p>③景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を布石として、まちづくりへの関心が高まり、景観検討の場への市民参画が盛んとなる。</li> </ul>	<p>ヒアリング</p>

<p>①利用の増加</p>	<p>・「散歩・散策・ウォーキングでの利用」について、川沿いの利用が増えた（57%）                  ※10%の人は、行動そのものを新に始めている。（ヒアリング結果と合わせて推察すると、ウォーキングの愛好者の増加と考えられる。）                  ・「通勤・通学・買い物など日常的な利用」が増えた（42%）</p>	<p>アンケート（住民対象 N=224）ヒアリング</p>
<p>②利用の多様化</p>	<p>・観光客が橋詰広場の鷺舞い像で記念写真と撮るようになった。</p> <p>・散策時などに井戸端会議的な利用が見られる。</p> <p>散歩の途中に橋詰で談笑する利用者</p>	<p>アンケート（住民対象 N=224、観光客 N=73）ヒアリング 現地観測</p>
<p>②利用の多様化</p>	<p>・川沿いを利用する観光客が増加した。（71%）</p> <p>・近隣の保育園が河原で子供を遊ばせるようになった</p> <p>広場で遊ぶ子供達</p>	<p>アンケート（住民対象 N=224、観光客 N=73）ヒアリング 現地観測</p>

団体活動、維持管理活動に与える効果	①イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏祭りが復活した。</li> <li>灯籠流しの会場及び見学場所としての利便性が向上した。</li> </ul>	ヒアリング
	②維持管理活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>植栽活動と清掃活動が行われるようになった。</li> <li>特に、清掃活動については参加者が多い。(41%)</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p>清掃活動や植栽活動への参加</p> <p>無回答 (8.0%)</p> <p>どちらも参加した (4.5%)</p> <p>清掃に参加した (36.2%)</p> <p>参加したことはない (49.6%)</p> <p>植栽に参加した (1.8%)</p> <p>N=224</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント的な清掃活動の他に、日常の自発的な清掃活動も行われている。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>消防署員による朝の清掃</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>郷土館職員による清掃</p> </div> </div>	アンケート（住民対象 N=224） ヒアリング 現地観測
景観整備による波及効果		調査結果	調査手法
周辺の空間に与える効果 隣接する空間整備に与える効果	①建物の形態、ファサード、意匠等の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>新に建設された建物に、景観への配慮が見られた。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> </div> <p>(写真) 川沿いに建設された銀行の寮では、意匠や外壁に景観への配慮が見られる。</p>	現地観測 ヒアリング
	②公共空間整備の拡張	<ul style="list-style-type: none"> <li>この整備を起点として、街並み整備のデザインの高質化が見られるようになった。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> </div> <p>(写真) 河川整備後に行われた本町通りの整備では住民参加と外部からのデザイナーの登用により高質な整備が行われた。</p>	現地観測 ヒアリング

周辺の空間整備に与える効果	①周辺施設整備との連携	・魅力的な散策ルートが整備されたことで、観光拠点間の連帯性が向上した	現地観測 ヒアリング
	②視点場の形成	・橋詰広場が川を眺める場として機能するようになった。	現地観測 ヒアリング
景観形成に寄与する制度等の構築	①景観形成に関する協議会の設置	・「津和野町まちづくり検討委員会」発足の布石となる。	ヒアリング
地域経済に与える効果	①観光振興	<p>・土産物店による団体客へのガイド時において、橋詰広場が有効に活用されている。</p>  <p>橋詰広場において太鼓谷稲成へのお参りを行う団体観光客</p>	現地観測 ヒアリング
外部評価の高まり	①外部機関（専門家）からの表彰等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土木学会デザイン賞受賞</li> <li>・しまね景観賞優秀賞受賞</li> <li>・都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」受賞（河川整備後に行われた街中の街路整備）</li> </ul>	ヒアリング 文献調査
	②マスコミ・メディア掲載の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ番組や旅行ガイドなどに取り上げられる機会が増加している。</li> <li>・演歌に歌われる：島津悦子「津和野川」2002年発売、オリコンチャート最高位 30位</li> </ul>	ヒアリング WEB

②効果の波及フロー図



③プロット図



橋詰広場で記念撮影や川を眺める観光客



ジョギングを行う人



川沿いを行く人力車



通学路としての利用



ウォーキングを行う人



景観の配慮した建物



清掃を行う人



観光客の周遊